



埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第288集

岡 部 町

宮西遺跡 I

岡部町西部工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告

- IV -

2003

岡 部 町

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



遺跡遠景



遺跡群全景 (合成写真)



第一次調査区全景（北から）



第一次調査区全景

発刊によせて

新世紀を迎え、我が国をとりまく社会情勢は大きく変化しております。

このような中で岡部町では、町民一人ひとりが真の豊かさを実感できる「みどりと活力、そしてふれあいのまち」を将来の都市像とした、第3次岡部町総合振興計画を策定し諸施策を積極的に進めてまいりました。

工業の振興を図ることを目的とした西部工業団地整備事業もそのひとつであり、平成8年から10年にかけて、榛沢地区に23.1haの工業団地が造成され、平成11年から一部の企業が操業を開始し、現在では進出した企業すべてが順調に操業されており今後の地域経済活性化の一助になればと大いに期待されるところであります。

ところで本町は、豊かな自然の恵みをうけ、古くからの歴史と文化に支えられた伝統のある町で、特に原始・古代の遺跡が数多く所在し、全国的に知られた遺跡も見つっております。

近年では、中宿遺跡で発見された建物群が、古代の榛沢郡の郡衙正倉として注目を集め、平成3年に県史跡「中宿古代倉庫群跡」の指定を受けました。

町は指定地の公有地化や、古代倉庫の復元など史跡の保存整備を進め、現在は中宿歴史公園として町民の憩いの場になっております。

また、西部工業団地整備事業地内にも国の重要文化財に指定された「緑釉手付瓶」を出土した西浦北遺跡をはじめとした榛沢遺跡群が所在し、これらの遺跡の発掘調査を財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団をお願いいたしました。

西部工業団地関係では、これまでに3冊の発掘調査報告書が刊行されましたが、今回報告の「宮西遺跡」では、かつて岡部の地に暮らした人々の足跡が記録され、その積み重ねのうちに長い歴史が築かれてきたことを知ることができます。

岡部町では、こうした先人達の営みによって生まれてきた特色ある地域文化を大切に後世に伝承することを基礎にして、新世紀にふさわしい個性豊かで魅力ある町づくりを進めて行きたいと考えております。

結びに、本報告書の刊行にあたりご協力いただきました多くの皆様に心から感謝申し上げます。

平成15年3月

岡部町長 伊藤幸徳

序

埼玉県では、豊かな彩の国づくりを実現するため、調和と均衡ある発展を目指し、それぞれの地域の特性や文化に応じた整備事業を行っております。都市と農村が調和をおこなす県北地域では、自然環境と共生し、創造性に満ちた活気ある産業社会の構築に向けて、先端技術産業を軸とした整備が推進されております。

岡部町西部工業団地造成事業は、県北地域の都市機能と居住環境の調和を図り産業の発展と雇用の拡大を目的として、岡部町により計画されたものです。

工業団地造成地内には5か所の埋蔵文化財包蔵地がありました。その取扱いにつきましては、関係機関が慎重に協議を重ねてまいりましたが、やむを得ず記録保存の措置が講じられることとなりました。調査につきましては、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課の調整により、岡部町の委託を受け当事業団が実施いたしました。

岡部町は、埼玉県内でも多くの埋蔵文化財が分布する地域として知られ、特に県指定史跡の「中宿古代倉庫群跡」は古代における榛沢郡衙の正倉と考えられております。

また、重要文化財の緑釉手付瓶を出土した西浦北遺跡は隣接地にあたります。

岡部町西部工業団地関係の報告書はすでに沖田遺跡及び大寄遺跡関係の三冊が刊行されておりますが、今回は宮西遺跡の一冊目の報告です。遺跡の内容は、縄文時代前期および古墳時代から平安時代の集落跡を中心とするものです。今後整理作業は継続され、さらに詳しい内容が明らかになっていきます。

本書が埋蔵文化財の保護、学術研究の基礎資料として、また、埋蔵文化財の普及や教育機関の参考資料として広く活用いただければ幸いです。

刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力をいただきました埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課をはじめ、発掘調査から報告書刊行に至るまで御協力いただきました岡部町教育委員会、鹿島道路株式会社、株式会社横森製作所、東洋エクステリア株式会社並びに地元関係者の方々に厚くお礼を申し上げます。

平成15年3月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理事長 桐川卓雄

例 言

本書は、大里郡岡部町に開発された岡部町西部工業団地造成事業地内に所在する大寄遺跡・沖田Ⅰ遺跡・沖田Ⅱ遺跡・沖田Ⅲ遺跡・宮西遺跡のうち宮西遺跡の一部に関する発掘調査報告書である。

1. 遺跡の略号と代表地番及び発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。

宮西遺跡第1次 (MYNS)

大里郡岡部町大字榛沢340番地12他

平成9年2月18日付け教文2-203号

宮西遺跡第2次

大里郡岡部町大字榛沢304番地8他

平成9年4月25日付け教文第2-13号

宮西遺跡第4次

大里郡岡部町大字榛沢305番地6他

平成10年4月24日付け教文2-9号

2. 発掘調査は、岡部町西部工業団地建設事業に伴う事前調査であり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が調整し、岡部町の委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が主体となり実施した。
3. 本事業は、第1章の組織により実施した。平成8年度は元井 茂、橋本勉、磯崎一、木戸春夫、宮瀧由紀子、鳥羽政之、宮本直樹が担当し、平成9年1月6日から平成9年3月31日まで実施した。平成9年度は橋本 勉、中村倉司、磯崎一、富田和夫、木戸春夫、平田重之、松田哲が担当し、平成9年4月1日から平成10年3月31日まで実施した。平成10年度は、磯崎 一、石坂俊郎、福田 聖、斎藤欣延が担当し、平成10年4月1日から平成10年8月31日まで実施し

た。また、整理報告書作成作業は平成10年度は木戸が平成10年12月1日から平成11年3月31日まで、平成11年度は磯崎が平成11年4月1日から平成11年10月31日、平成11年12月1日から平成12年3月31日まで、平成12年度は富田が平成12年4月1日から平成12年9月30日まで、平成13年度は福田が平成13年10月1日から平成14年3月30日まで実施した。平成14年度は木戸が平成14年10月1日から平成15年3月24日まで行った。

4. 遺跡の基準点測量と航空写真は、株式会社東京航業研究所に委託した。
5. 発掘調査時の遺構写真撮影は各担当者が行った。遺物写真は大屋道則が撮影した。
6. 本報告書の出土品の整理・図版の作成は木戸のもとで桜井元子が行った。遺物実測は金属製品を瀧瀬芳之、それ以外は桜井元子・成田友紀子が行った。
7. 本文の執筆は、I-1を埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が、それ以外は木戸が行った。
8. 本書の編集は、木戸が担当した。
9. 本書にかかる資料は平成15年度以降、埼玉県立埋蔵文化財センターが保管する。
10. 本書の作成にあたり下記の方々からご教示、ご協力を賜った。記して謝意を表します。

(敬称略)

岡部町教育委員会 斎藤欣延 佐藤忠雄
知久裕昭 鳥羽政之 平田重之 松田 哲
宮本直樹

凡 例

1. 本書の遺跡全測図における X・Y の座標値は、国土標準平面直角座標第 IX 系に基づく座標値を示している。また、各遺構図における方位指示は、全て座標北を示している。
2. グリッドは 10m×10m 方眼で設定し、グリッドの呼称は、北西隅の杭番号である。
3. 遺構図及び実測図の縮尺は、原則として以下のとおりである。

遺構図	住居跡……………	1/60
遺物図	土器……………	1/4
	鉄製品……………	1/3
	拓影図……………	1/4

上記に合わないものに関しては、縮尺率等をそのつと示している。
4. 遺構図等に示す遺構表記の略号は以下のとおりである。

SJ	・ ・ ・	竪穴住居跡
SB	・ ・ ・	掘立柱建物跡
SK	・ ・ ・	土塙
SD	・ ・ ・	溝跡
SE	・ ・ ・	井戸跡
SA	・ ・ ・	欄列跡
ST	・ ・ ・	古墳跡
SX	・ ・ ・	竪穴状遺構
5. 挿図中のスクリーン・トーンは以下のことを示す。

遺構断面図	・ ・ ・	斜線部分	・ ・ ・	地山
遺物図	については	灰軸陶器の	灰軸	
塗布部分	に	網を	かけて	示した。
断面黒塗り	は	須恵器を	表す。	
6. 遺構平面図のビットに付した数値は、上端からの深さを示す。
7. 遺構断面図における水平数値は、海拔高度を示しており、単位 m である。
8. 遺物観察表は次のとおりである。

胎土は、	肉眼で	観察できるもの	について	示した。				
A	・ ・ ・	赤色粒	B	・ ・ ・	石英	C	・ ・ ・	長石
D	・ ・ ・	角閃石	E	・ ・ ・	白色粒	F	・ ・ ・	白色
		針状物質	G	・ ・ ・	雲母	H	・ ・ ・	砂粒
I	・ ・ ・	片岩	J	・ ・ ・	礫			
9. 本書に掲載した地形図等は以下のものを使用している。

国土地理院	1/50000	地形図				
			「高崎」	「寄居」		
国土地理院	1/25000	地形図				
			「本庄」	「寄居」	「深谷」	「三ヶ尻」
国土地理院	1/2500	国土基本図				
			「IX—JC 25—2」	(昭和36年作成)		

目次

口 絵

発刊によせて

序

例 言

凡 例

目 次

I 発掘調査の概要	1
1 調査にいたるまでの経過	1
2 発掘調査・報告書作成の経過	2
3 発掘調査・整理・報告書刊行の組織	4
II 遺跡群の立地と環境	7
1 地理的環境	7
2 周辺の遺跡	9
III 遺跡群の概要	14
1 遺跡群の概要	14
2 宮西遺跡の概要	15
IV 遺構と遺物	27
1 竪穴住居跡	27

挿図目次

第 1 図	年度別調査範囲	3	第 36 図	第 20・34・35号住居跡	52
第 2 図	埼玉県の地形	7	第 37 図	第 20・34・35号住居跡出土遺物	53
第 3 図	遺跡周辺の地形区分	8	第 38 図	第 21・22号住居跡・出土遺物	54
第 4 図	遺跡分布図	12	第 39 図	第 23号住居跡・出土遺物	56
第 5 図	周辺の遺跡	15	第 40 図	第 24・32・42・45号住居跡	57
第 6 図	関連遺跡遺構分布図	16・17	第 41 図	第 24・32・42・45号住居跡出土遺物	58
第 7 図	グリッド配置図	19	第 42 図	第 25号住居跡・出土遺物	59
第 8 図	全測図区劃図	20	第 43 図	第 26号住居跡・出土遺物	60
第 9 図	遺構全測図(1)	21	第 44 図	第 27・41号住居跡・出土遺物	61
第 10 図	遺構全測図(2)	22	第 45 図	第 28・29・30・31号住居跡	62
第 11 図	遺構全測図(3)	23	第 46 図	第 28・29・30・31号住居跡出土遺物	63
第 12 図	遺構全測図(4)	24	第 47 図	第 36・37号住居跡・遺物出土状況	65
第 13 図	遺構全測図(5)	25	第 48 図	第 36号住居跡出土遺物	66
第 14 図	遺構全測図(6)	26	第 49 図	第 37号住居跡出土遺物(1)	67
第 15 図	第 1号住居跡	28	第 50 図	第 37号住居跡出土遺物(2)	68
第 16 図	第 1号住居跡出土遺物	29	第 51 図	第 38・39・40・43号住居跡	69
第 17 図	第 2号住居跡	30	第 52 図	第 38・39・40・43号住居跡出土遺物	70
第 18 図	第 2号住居跡出土遺物(1)	31	第 53 図	第 44号住居跡・遺物出土状況	73
第 19 図	第 2号住居跡出土遺物(2)	32	第 54 図	第 44号住居跡出土遺物	74
第 20 図	第 3・4・5号住居跡	34	第 55 図	第 46・47・48号住居跡・出土遺物	75
第 21 図	第 3号住居跡出土遺物	35	第 56 図	第 49・50号住居跡・出土遺物	76
第 22 図	第 6号住居跡・出土遺物	37	第 57 図	第 51号住居跡	79
第 23 図	第 7・11号住居跡	38	第 58 図	第 51号住居跡出土遺物	80
第 24 図	第 7・11号住居跡出土遺物	39	第 59 図	第 52・53・54・55・56号住居跡(1)	82
第 25 図	第 8号住居跡・出土遺物	40	第 60 図	第 52・53・54・55・56号住居跡(2)	83
第 26 図	第 9号住居跡・出土遺物	41	第 61 図	第 52号住居跡出土遺物	84
第 27 図	第 10号住居跡・出土遺物	42	第 62 図	第 52・53・54~56号住居跡出土遺物	85
第 28 図	第 12号住居跡・出土遺物	43	第 63 図	第 55号住居跡出土遺物(1)	86
第 29 図	第 13号住居跡・出土遺物	45	第 64 図	第 55号住居跡出土遺物(2)	87
第 30 図	第 14号住居跡	46	第 65 図	第 57号住居跡	89
第 31 図	第 15号住居跡・出土遺物	47	第 66 図	第 57号住居跡出土遺物	90
第 32 図	第 16号住居跡・出土遺物	48	第 67 図	第 58号住居跡・出土遺物	91
第 33 図	第 17号住居跡・出土遺物	49	第 68 図	第 59・60・61号住居跡	92
第 34 図	第 18号住居跡・出土遺物	50	第 69 図	第 59・60・61号住居跡出土遺物	93
第 35 図	第 19号住居跡・出土遺物	51	第 70 図	第 62・63号住居跡	95

第71图	第62号住居跡出土遺物	96
第72图	第64号住居跡	97
第73图	第64号住居跡出土遺物	98
第74图	第65号住居跡·出土遺物	99
第75图	第66·67·68号住居跡(1)	100
第76图	第66·67·68号住居跡(2)	101
第77图	第67·68号住居跡出土遺物	101
第78图	第69·82·88·104号住居跡	102
第79图	第82号住居跡出土遺物	103
第80图	第104号住居跡出土遺物	103
第81图	第70·74·78号住居跡	105
第82图	第70·74·78号住居跡出土遺物	106
第83图	第71·72·91号住居跡	107
第84图	第71·72号住居跡出土遺物	108
第85图	第73号住居跡·出土遺物	109
第86图	第75·81号住居跡	110
第87图	第75·81号住居跡·出土遺物	111
第88图	第76号住居跡·出土遺物	113
第89图	第77号住居跡·出土遺物	114
第90图	第79·80号住居跡·出土遺物	115
第91图	第83号住居跡·出土遺物	116
第92图	第84号住居跡	117
第93图	第85号住居跡	118
第94图	第85号住居跡出土遺物(1)	119
第95图	第85号住居跡出土遺物(2)	120
第96图	第86·95号住居跡	121
第97图	第95号住居跡出土遺物	122
第98图	第87号住居跡·出土遺物	124
第99图	第89·111号住居跡·出土遺物	125
第100图	第90号住居跡	127
第101图	第90号住居跡出土遺物	128

第102图	第92号住居跡	129
第103图	第93·98号住居跡·出土遺物	130
第104图	第94号住居跡·出土遺物	131
第105图	第96号住居跡·出土遺物	132
第106图	第97号住居跡·出土遺物	133
第107图	第99·100号住居跡	134
第108图	第99·100号住居跡出土遺物	135
第109图	第101号住居跡	136
第110图	第101号住居跡出土遺物	137
第111图	第102号住居跡·出土遺物	138
第112图	第103·110号住居跡	139
第113图	第103·110号住居跡出土遺物	140
第114图	第105号住居跡·出土遺物	141
第115图	第106号住居跡·出土遺物	142
第116图	第107号住居跡	143
第117图	第107号住居跡出土遺物	144
第118图	第108·121号住居跡·出土遺物	145
第119图	第109·113号住居跡	146
第120图	第109号住居跡出土遺物	147
第121图	第113号住居跡出土遺物	148
第122图	第112号住居跡出土遺物	149
第123图	第114·115号住居跡	150
第124图	第114·115号住居跡出土遺物	151
第125图	第116号住居跡·出土遺物	152
第126图	第117·122号住居跡	153
第127图	第117号住居跡出土遺物	154
第128图	第122号住居跡出土遺物	154
第129图	第119号住居跡·出土遺物	155
第130图	第120号住居跡·出土遺物	156
第131图	第123号住居跡	157

表 目 次

第 1 表	各遺跡の調査期間と面積	2	第 36 表	第 43 号住居跡出土遺物観察表	71
第 2 表	第 1 号住居跡出土遺物観察表	29	第 37 表	第 44 号住居跡出土遺物観察表	73
第 3 表	第 2 号住居跡出土遺物観察表	33	第 38 表	第 46・48 号住居跡出土遺物観察表	75
第 4 表	第 3 号住居跡出土遺物観察表	34	第 39 表	第 49 号住居跡出土遺物観察表	77
第 5 表	第 6 号住居跡出土遺物観察表	37	第 40 表	第 50 号住居跡出土遺物観察表	77
第 6 表	第 7 号住居跡出土遺物観察表	39	第 41 表	第 51 号住居跡出土遺物観察表	81
第 7 表	第 11 号住居跡出土遺物観察表	39	第 42 表	第 52 号住居跡出土遺物観察表	88
第 8 表	第 8 号住居跡出土遺物観察表	40	第 43 表	第 53 号住居跡出土遺物観察表	88
第 9 表	第 9 号住居跡出土遺物観察表	41	第 44 表	第 54~56 号住居跡出土遺物観察表	88
第 10 表	第 10 号住居跡出土遺物観察表	42	第 45 表	第 55 号住居跡出土遺物観察表	88
第 11 表	第 12 号住居跡出土遺物観察表	43	第 46 表	第 57 号住居跡出土遺物観察表	90
第 12 表	第 13 号住居跡出土遺物観察表	45	第 47 表	第 58 号住居跡出土遺物観察表	91
第 13 表	第 15 号住居跡出土遺物観察表	47	第 48 表	第 59 号住居跡出土遺物観察表	94
第 14 表	第 16 号住居跡出土遺物観察表	48	第 49 表	第 60 号住居跡出土遺物観察表	94
第 15 表	第 17 号住居跡出土遺物観察表	49	第 50 表	第 61 号住居跡出土遺物観察表	94
第 16 表	第 18 号住居跡出土遺物観察表	50	第 51 表	第 62 号住居跡出土遺物観察表	96
第 17 表	第 19 号住居跡出土遺物観察表	51	第 52 表	第 62 号住居跡出土遺物石計測表	96
第 18 表	第 20 号住居跡出土遺物観察表	52	第 53 表	第 64 号住居跡出土遺物観察表	98
第 19 表	第 34 号住居跡出土遺物観察表	53	第 54 表	第 65 号住居跡出土遺物観察表	99
第 20 表	第 35 号住居跡出土遺物観察表	53	第 55 表	第 67 号住居跡出土遺物観察表	101
第 21 表	第 21・22 号住居跡出土遺物観察表	55	第 56 表	第 68 号住居跡出土遺物観察表	101
第 22 表	第 23 号住居跡出土遺物観察表	56	第 57 表	第 82 号住居跡出土遺物観察表	103
第 23 表	第 24 号住居跡出土遺物観察表	58	第 58 表	第 104 号住居跡出土遺物観察表	103
第 24 表	第 32 号住居跡出土遺物観察表	58	第 59 表	第 70 号住居跡出土遺物観察表	106
第 25 表	第 45 号住居跡出土遺物観察表	58	第 60 表	第 74 号住居跡出土遺物観察表	106
第 26 表	第 25 号住居跡出土遺物観察表	59	第 61 表	第 78 号住居跡出土遺物観察表	106
第 27 表	第 26 号住居跡出土遺物観察表	60	第 62 表	第 71 号住居跡出土遺物観察表	108
第 28 表	第 27 号住居跡出土遺物観察表	61	第 63 表	第 72 号住居跡出土遺物観察表	108
第 29 表	第 28・29・30 号住居跡出土遺物観察表	63	第 64 表	第 73 号住居跡出土遺物観察表	109
第 30 表	第 31 号住居跡出土遺物観察表	63	第 65 表	第 75 号住居跡出土遺物観察表	112
第 31 表	第 36 号住居跡出土遺物観察表	66	第 66 表	第 81 号住居跡出土遺物観察表	112
第 32 表	第 37 号住居跡出土遺物観察表	68	第 67 表	第 76 号住居跡出土遺物観察表	113
第 33 表	第 38 号住居跡出土遺物観察表	71	第 68 表	第 77 号住居跡出土遺物観察表	114
第 34 表	第 39 号住居跡出土遺物観察表	71	第 69 表	第 79・80 号住居跡出土遺物観察表	115
第 35 表	第 40 号住居跡出土遺物観察表	71	第 70 表	第 83 号住居跡出土遺物観察表	116

第 71 表	第85号住居跡出土遺物觀察表……………120	第 87 表	第105号住居跡出土遺物觀察表 ……141
第 72 表	第95号住居跡出土遺物觀察表……………123	第 88 表	第106号住居跡出土遺物觀察表 ……142
第 73 表	第87号住居跡出土遺物觀察表……………124	第 89 表	第107号住居跡出土遺物觀察表 ……144
第 74 表	第89号住居跡出土遺物觀察表……………125	第 90 表	第108号住居跡出土遺物觀察表 ……145
第 75 表	第111号住居跡出土遺物觀察表 ……126	第 91 表	第121号住居跡出土遺物觀察表 ……145
第 76 表	第118号住居跡出土遺物觀察表 ……126	第 92 表	第109号住居跡出土遺物觀察表 ……147
第 77 表	第90号住居跡出土遺物觀察表……………128	第 93 表	第109号住居跡出土編物石計測表 ……147
第 78 表	第93号住居跡出土遺物觀察表……………130	第 94 表	第113号住居跡出土遺物觀察表 ……148
第 79 表	第98号住居跡出土遺物觀察表……………130	第 95 表	第112号住居跡出土遺物觀察表 ……149
第 80 表	第94号住居跡出土遺物觀察表……………131	第 96 表	第114・115号住居跡出土遺物觀察表…151
第 81 表	第96号住居跡出土遺物觀察表……………132	第 97 表	第116号住居跡出土遺物觀察表 ……152
第 82 表	第97号住居跡出土遺物觀察表……………133	第 98 表	第117号住居跡出土遺物觀察表 ……154
第 83 表	第99・100号住居跡出土遺物觀察表 ……134	第 99 表	第122号住居跡出土遺物觀察表 ……154
第 84 表	第101号住居跡出土遺物觀察表 ……138	第100表	第119号住居跡出土遺物觀察表 ……155
第 85 表	第102号住居跡出土遺物觀察表 ……138	第101表	第120号住居跡出土遺物觀察表 ……156
第 86 表	第103・110号住居跡出土遺物觀察表…140		

図版目次

- 図版1 遺構確認状況
W・X-44グリッド付近（東から）
遺構完掘状況
Y-49グリッド付近（東から）
- 図版2 第1号住居跡
第2号住居跡
第3・4・5・13号住居跡
- 図版3 第6号住居跡
第8号住居跡
第9号住居跡
- 図版4 第10号住居跡
第11号住居跡
第12号住居跡
- 図版5 第14号住居跡
第15号住居跡
第16号住居跡
- 図版6 第17号住居跡
第19号住居跡
第20・34・35号住居跡
- 図版7 第21・22号住居跡
第23号住居跡
第24・32・42号住居跡
- 図版8 第25号住居跡
第26号住居跡
第27号住居跡
- 図版9 第28・29・30号住居跡
第36・37号住居跡
第37号住居跡貯蔵穴遺物
出土状況
- 図版10 第38号住居跡
第43号住居跡
第44号住居跡
- 図版11 第44号住居跡貯蔵穴遺物
出土状況
第49・50号住居跡
- 第51号住居跡
- 図版12 第52・53号住居跡
第55号住居跡
第57号住居跡
- 図版13 第62号住居跡貯蔵穴遺物
出土状況
第62・63号住居跡
第65号住居跡
- 図版14 第66・68号住居跡
第67号住居跡
第68号住居跡
- 図版15 第70号住居跡
第72号住居跡
第73号住居跡
- 図版16 第73号住居跡貯蔵穴遺物
出土状況
第74・78号住居跡
第75号住居跡
- 図版17 第76号住居跡
第79・80号住居跡遺物出土状況
第81号住居跡
- 図版18 第82号住居跡
第84号住居跡
第85号住居跡
- 図版19 第87号住居跡
第89号住居跡
第90号住居跡
- 図版20 第92号住居跡
第94号住居跡
第95号住居跡
- 図版21 第96号住居跡
第97号住居跡
第98号住居跡
- 図版22 第99・100号住居跡
第101号住居跡

	第101号住居跡遺物出土狀況				第28・29・30号住居跡	第46図2
図版23	第102号住居跡				第28・29・30号住居跡	第46図4
	第103号住居跡				第28・29・30号住居跡	第46図5
	第104号住居跡				第28・29・30号住居跡	第46図6
図版24	第105号住居跡				第28・29・30号住居跡	第46図8
	第106号住居跡				第37号住居跡	第50図17
	第107号住居跡				第40号住居跡	第52図14
図版25	第108号住居跡		図版31		第43号住居跡	第52図15
	第109号住居跡				第44号住居跡	第54図1
	第110号住居跡				第44号住居跡	第54図2
図版26	第111号住居跡				第44号住居跡	第54図3
	第112号住居跡				第44号住居跡	第54図5
	第113号住居跡				第44号住居跡	第54図6
図版27	第116号住居跡				第44号住居跡	第54図7
	第119号住居跡遺物出土狀況				第44号住居跡	第54図9
	第120号住居跡				第44号住居跡	第54図10
図版28	第2号住居跡	第18図15			第44号住居跡	第54図11
	第2号住居跡	第18図21		図版32	第52号住居跡	第61図6
	第2号住居跡	第18図25			第52号住居跡	第61図8
	第3号住居跡	第21図1			第52号住居跡	第61図9
	第3号住居跡	第21図2			第52号住居跡	第61図12
	第3号住居跡	第21図3			第52号住居跡	第61図16
	第3号住居跡	第21図4			第52号住居跡	第61図17
	第17号住居跡	第33図1			第59号住居跡	第69図2
	第17号住居跡	第33図4			第59号住居跡	第69図3
	第17号住居跡	第33図5			第60号住居跡	第69図10
図版29	第17号住居跡	第33図6			第60号住居跡	第69図11
	第19号住居跡	第35図1		図版33	第60号住居跡	第69図12
	第20号住居跡	第37図5			第62号住居跡	第71図1
	第20号住居跡	第37図7			第62号住居跡	第71図3
	第21号住居跡	第38図1			第62号住居跡	第71図2
	第22号住居跡	第38図3			第64号住居跡	第73図4
	第22号住居跡	第38図4			第71号住居跡	第84図4
	第24号住居跡	第41図1			第71号住居跡	第84図5
図版30	第24号住居跡	第41図2			第74号住居跡	第82図4
	第24号住居跡	第41図4			第75号住居跡	第87図2
	第28号住居跡	第46図3			第75号住居跡	第87図3

- 图版34 第75号住居跡 第87图 4
 第75号住居跡 第87图 7
 第75号住居跡 第87图 8
 第76号住居跡 第88图 1
 第77号住居跡 第89图 1
 第77号住居跡 第89图 2
 第77号住居跡 第89图 3
 第79·80号住居跡 第90图 1
 第79·80号住居跡 第90图 2
 第79·80号住居跡 第90图 3
- 图版35 第79·80号住居跡 第90图 4
 第79·80号住居跡 第90图 5
 第81号住居跡 第87图16
 第81号住居跡 第87图17
 第85号住居跡 第94图 9
 第85号住居跡 第94图10
 第85号住居跡 第94图11
 第90号住居跡 第101图 2
 第90号住居跡 第101图 3
 第94号住居跡 第104图 1
- 图版36 第95号住居跡 第97图 1
 第95号住居跡 第97图 2
 第95号住居跡 第97图 4
 第95号住居跡 第97图 5
 第96号住居跡 第105图 3
 第96号住居跡 第105图 4
 第99·100号住居跡 第108图 1
 第99·100号住居跡 第108图 2
 第99·100号住居跡 第108图 7
 第101号住居跡 第110图 1
- 图版37 第103号住居跡 第113图 4
 第103号住居跡 第113图 5
 第107号住居跡 第117图 1
 第107号住居跡 第117图 3
 第107号住居跡 第117图 2
 第108号住居跡 第118图 1
 第108号住居跡 第118图 2
- 第108号住居跡 第118图 3
- 图版38 第109号住居跡 第120图 1
 第111号住居跡 第99图 2
 第111号住居跡 第99图 3
 第114号住居跡 第124图 9
 第116号住居跡 第125图 1
 第120号住居跡 第130图 1
 第1号住居跡 第16图 6
 第2号住居跡 第18图 1
- 图版39 第1号住居跡 第16图 5
 第2号住居跡 第18图16
 第2号住居跡 第18图22
 第2号住居跡 第18图24
 第3号住居跡 第21图13
 第20号住居跡 第37图12
 第21号住居跡 第38图 7
 第22号住居跡 第38图 5
- 图版40 第22号住居跡 第38图 8
 第28号住居跡 第46图13
 第28号住居跡 第46图11
 第28·29·30号住居跡 第46图 1
 第37号住居跡 第50图16
 第44号住居跡 第54图12
 第52号住居跡 第61图 4
 第52号住居跡 第61图 5
- 图版41 第52·53号住居跡 第61图19
 第55号住居跡 第63图 3
 第55号住居跡 第63图 4
 第55号住居跡 第64图14
 第57号住居跡 第66图 4
 第58号住居跡 第67图 1
 第64号住居跡 第73图 2
 第68号住居跡 第77图 4
- 图版42 第71号住居跡 第84图 3
 第72号住居跡 第84图 8
 第75号住居跡 第87图 1
 第85号住居跡 第94图 2

- | | | | | | |
|------|---------------|---------|------|------------|----------|
| | 第85号住居跡 | 第94図 3 | | 第44号住居跡 | 第54図13 |
| | 第85号住居跡 | 第94図 4 | | 第44号住居跡 | 第54図17 |
| | 第85号住居跡 | 第94図 6 | | 第49号住居跡 | 第56図 1 |
| | 第85号住居跡 | 第94図 8 | 図版49 | 第51号住居跡 | 第58図 8 |
| 図版43 | 第101号住居跡 | 第110図12 | | 第52号住居跡 | 第61図20 |
| | 第101号住居跡 | 第110図17 | | 第52号住居跡 | 第61図21 |
| | 第107号住居跡 | 第117図 4 | | 第52号住居跡 | 第62図23 |
| | 第113号住居跡 | 第121図 7 | | 第54~56号住居跡 | 第62図34 |
| | 第44号住居跡 | 第54図16 | | 第55号住居跡 | 第63図 1 |
| | 第51号住居跡 | 第58図 5 | 図版50 | 第55号住居跡 | 第63図 5 |
| 図版44 | 第 2 号住居跡 | 第19図30 | | 第55号住居跡 | 第63図 9 |
| | 第 2 号住居跡 | 第19図31 | | 第55号住居跡 | 第63図10 |
| | 第 2 号住居跡 | 第19図32 | | 第55号住居跡 | 第63図11 |
| | 第 3 号住居跡 | 第21図 6 | | 第58号住居跡 | 第67図 3 |
| | 第 3 号住居跡 | 第21図 7 | | 第59号住居跡 | 第69図 7 |
| | 第 7 号住居跡 | 第24図 5 | 図版51 | 第64号住居跡 | 第73図 5 |
| 図版45 | 第17号住居跡 | 第33図 7 | | 第68号住居跡 | 第77図 5 |
| | 第24号住居跡 | 第41図 6 | | 第75号住居跡 | 第87図14 |
| | 第26号住居跡 | 第43図 6 | | 第85号住居跡 | 第95図16 |
| | 第28・29・30号住居跡 | 第46図12 | | 第95号住居跡 | 第97図10 |
| | 第37号住居跡 | 第49図 2 | | 第95号住居跡 | 第97図11 |
| | 第37号住居跡 | 第49図 3 | 図版52 | 第95号住居跡 | 第97図16 |
| 図版46 | 第37号住居跡 | 第49図 5 | | 第96号住居跡 | 第105図 6 |
| | 第37号住居跡 | 第49図 6 | | 第107号住居跡 | 第117図 5 |
| | 第37号住居跡 | 第49図 7 | | 第113号住居跡 | 第121図 8 |
| | 第37号住居跡 | 第49図 8 | | 第117号住居跡 | 第127図 4 |
| | 第37号住居跡 | 第49図 9 | | 第119号住居跡 | 第129図 3 |
| | 第37号住居跡 | 第49図10 | 図版53 | 第55号住居跡 | 第63図 8 |
| 図版47 | 第37号住居跡 | 第49図11 | | 第57号住居跡 | 第66図 5 |
| | 第37号住居跡 | 第49図12 | | 第74号住居跡 | 第82図 5 |
| | 第37号住居跡 | 第49図13 | | 第85号住居跡 | 第94図14 |
| | 第37号住居跡 | 第49図14 | 図版54 | 第107号住居跡 | 第117図 7 |
| | 第37号住居跡 | 第50図15 | | 第113号住居跡 | 第129図 4 |
| | 第37号住居跡 | 第49図 1 | 図版55 | 第101号住居跡 | 第110図14 |
| 図版48 | 第37号住居跡 | 第49図 4 | | 第114号住居跡 | 第124図16 |
| | 第43号住居跡 | 第52図18 | | 第 6 号住居跡 | 第22図 5・6 |
| | 第43号住居跡 | 第52図19 | | 第 7 号住居跡 | 第84図 6 |

第82号住居跡 第79図 9

第57号住居跡 第66図 6

図版56 鉄製品

土製勾玉・土鐘

第50号住居跡 第56図 7

紡錘車

第122号住居跡 第128図 2

I 発掘調査の概要

1 調査にいたるまでの経過

岡部町は、農業を中心とした町づくりから、産業構造の転換を図り、工業、商業、農業のバランスをとれた創造性豊かな活力に満ちた町づくりの実現に取り組んでいる。

事業の目玉となる道の駅おかべ、中宿歴史公園、古代倉庫復元など県指定史跡中宿遺跡を中心に史跡を活用した総合的な整備と、岡部駅周辺の区画整理事業が始まった。事業地内の熊野遺跡の事前発掘調査も実施され、和同開寶や三彩陶枕などの注目すべき出土品から、熊野遺跡は律令時代の榛澤郡衙の中心地と推定されている。

こうした開発事業に対応するため、町は新たに平成5年度から文化財保護体制の整備と充実を図るため、教育委員会に文化財保護室を設置した。県はこれに応え県職員を派遣し体制の強化を支援している。

一方、町は工業の導入振興によって税収の増大と雇用の促進をはかるため、榛澤地区に開発面積231,000㎡の民間企業3社が進出する岡部町西部工業団地建設を誘致した。

工業団地建設予定地には埋蔵文化財包蔵地が所在するため、町は事業者とその取り扱いについて協議を重ねてきた。町教育委員会は平成8年9月から11月にかけて、予定地内の試掘調査を実施し、5ヵ所の遺跡の所在を確認した。遺跡の面積は合計約86,200㎡に達することが明らかとなった。

町は遺跡を出来るだけ保存する方向で開発企業3社に設計変更を要望して、調査期間の短縮、調査費用の縮減をはかった。しかし、町文化財保護室の体制は区画整理や歴史公園建設、町史編さん事業等と並行して、工業団地の発掘調査に対応するだけの条件が整わず、町主体となつての発掘調査計画は暗礁に乗り上げた。

行き詰まった状況を何とか打開するため、岡部町

長は工業団地建設促進に伴う埋蔵文化財の発掘調査協力について、県の協力が得られるよう県教育委員会に陳情し、指導及び協力を依頼した。

町は苦しい財政状況の中で6人の専門職員を配し、文化財行政の積極的推進に努め先進的な体制造りに努力している。県はこうした町の姿勢を高く評価した。この上さらに工業団地の発掘調査を実施するだけの余力は残されていないと判断した。そこで県文化財保護課は調査の受皿として財団法人埼玉埋蔵文化財調査事業団（以下「埋文事業団」）が受託事業として実施できるかどうか検討に入り、関係各方面と調整を図り、受託条件等を整備した。そして局内の合意を得て市町村支援の観点から、埋文事業団が委託を受けて発掘調査を実施する旨、正式に町と事業者に伝え、理解と協力を求めた。その方針は、調査主体を埋文事業団とし、町も調査組織に職員を派遣して全面協力体制をとるものである。さっそく関係者間で具体的な調査期間、方法、経費を中心に協議が行われた。

かくして平成8年12月19日付け教文第1246号で県から事業者の鹿島道路株式会社・株式会社横森製作所・東洋エクステリア株式会社あて、岡部町と事業委託契約の締結を、岡部町は埋文事業団と事業委託契約の手続きを行うよう通知した。

発掘調査に先立ち事業者からは文化財保護法第57条の2第1項に基づく発掘届が、埋文事業団からは同法第57条第1項に基づく発掘調査届が提出され、平成9年1月6日から発掘調査が開始された。

それぞれに対する指示通知は以下のとおりである。

発掘届 平成9年2月18日付け教文第3-689号
発掘通知
第1次 平成9年2月18日付け教文第2-203号
第2次 平成9年4月25日付け教文第2-13号
第4次 平成10年4月24日付け教文第2-9号
(文化財保護課)

検出された。

平成10年度は南側の残りの部分を調査した。調査区西側は前年度と同じ自然流路が蛇行し、南側は堅穴住居跡の分布が疎らになり、掘立柱建物が多くなる傾向が見られた。さらにその南は、溝を境として遺構がほとんど構築されていないことがわかった。調査は、平成10年4月6日から8月31日まで行われた。年度始めに前年度に済ませてあった表土除去部分の調査に入り、順調に作業を進めた。梅雨の雨などもあったが、7月末には航空写真撮影を行うことができ、引き続き遺構の図化作業を行い、図面の点検整理を済ませ、8月末に岡部町西部工業団地造成にかかるすべての調査を終了した。平成10年度の調査面積は8,500㎡、検出遺構数は縄文時代前期の住居跡及び古墳時代から平安時代に至る住居跡が計83軒、掘立柱建物跡22棟、土坑56基等、多数の遺構とそれに伴う遺物が検出された。

なお、整理作業は継続中であり遺構数は今後変更される可能性があることをお断りしておく。

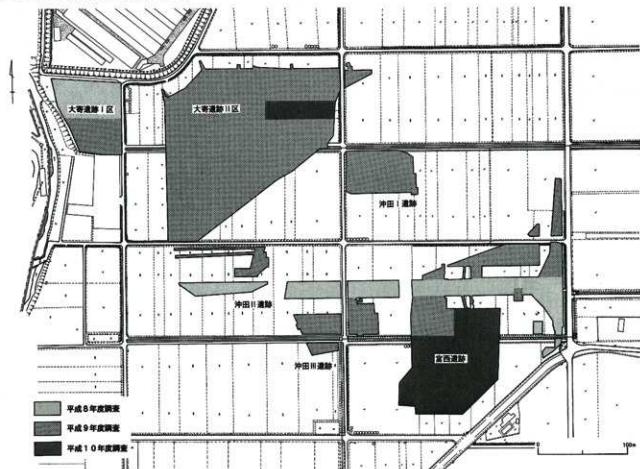
整理・報告書作成

整理事業は、平成14年度から3年度にわたって行い、報告書は2冊刊行する予定である。

今年度は古墳時代以降の住居跡の一部について報告する予定で、平成14年10月1日から平成15年3月24日まで実施した。

作業は遺物の水洗、注記を経て、接合、復原を行い、報告を要するものについて拓本採り、実測図を作成した。遺構図は原因の整理・確認と二次原因の作成、トレースなどを進めた。その後、遺構図・遺物図版の版組、遺物写真撮影、原稿執筆等を行い、1月割付を作成、2月入札。校正を行い、3月本書の印刷を終了した。

整理作業は、次年度以降継続する。



第1図 年度別調査範囲

3 発掘調査・整理・報告書刊行の組織

主体者 財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

(1) 発掘調査

平成8年度

理事長 荒井 桂
副理事長 富田 真也
専務理事 吉川 國男
常務理事兼管理部長 稲葉 文夫
理事兼調査部長 梅沢 太久夫
管理部

庶務課長 依田 透
主査 西沢 信行
主任 長滝 美智子
主任 菊池 久
専門調査員兼経理課長 関野 栄一
主任 江田 和美
主任 福田 昭美
主任 腰塚 雄二

調査部

調査部副部長 高橋 一夫
調査第二課長 大和 修
主査 元井 茂
主査 橋本 勉
主査 磯崎 一
主任調査員 木戸 春夫
主任調査員 宮瀧 由紀子

岡部町教育委員会

主任 鳥羽 政之
主任 宮本 直樹

平成9年度

理事長 荒井 桂
副理事長 富田 真也
専務理事 塩野 博
常務理事兼管理部長 稲葉 文夫
理事兼調査部長 梅沢 太久夫

管理部

庶務課長 依田 透
主査 西沢 信行
主任 長滝 美智子
主任 腰塚 雄二
専門調査員兼経理課長 関野 栄一
主任 江田 和美
主任 福田 昭美
主任 菊池 久

調査部

調査部副部長 今泉 泰之
調査第一課長 井上 尚明
主査 橋本 勉
主査 中村 倉司
主査 磯崎 一
主任調査員 富田 和夫
主任調査員 木戸 春夫
岡部町教育委員会
主任 平田 重之
臨時職員 松田 哲

平成10年度

理事長 荒井 桂
副理事長 飯塚 誠一郎
常務理事兼管理部長 鈴木 進
管理部

庶務課長 金子 隆
主査 田中 裕二
主任 長滝 美智子
主任 腰塚 雄二
主任 関野 栄一
主任 江田 和美
主任 福田 昭美
主任 菊池 久

調査部

調査部長	谷井 彪
調査部副部長	水村 孝行
調査第二課長	井上 尚明
主 査	磯 崎 一
主任調査員	石坂 俊郎
主任調査員	福田 聖
岡部町教育委員会	
臨時職員	京 藤 欣延

主 任	江田 和美
主 任	長 滝 美智子
主 任	主 任 昭 美
主 任	主 任 雄 二
主 任	主 任 久
資料部	
資料部長	高橋 一夫
専門調査員兼資料部副部長	石 岡 憲 雄
専門調査員	大 和 修
統括調査員	磯 崎 一

(2) 整理・報告書作成事業

平成10年度

理事 長	荒井 桂
副理事 長	飯塚 誠一郎
常務理事兼管理部長	鈴木 進
管理部	
庶務課 長	金子 隆
主 査	田中 裕二
主 任	長 滝 美智子
主 任	腰塚 雄二
専門調査員兼経理課長	関野 栄一
主 任	江田 和美
主 任	福田 昭美
主 任	菊池 久
資料部	
資料部長	増田 逸朗
主幹兼資料部副部長	小久保 徹
資料整理第二課長	市川 修
主任調査員	木戸 春夫

平成11年度

理事 長	荒井 桂
副理事 長	飯塚 誠一郎
常務理事兼管理部長	広木 卓
管理部	
管理部副部長兼経理課長	関野 栄一
庶務課 長	金子 隆
主 査	田中 裕二

平成12年度

理事 長	中野 健一
副理事 長	飯塚 誠一郎
常務理事兼管理部長	広木 卓
管理部	
管理部副部長	関野 栄一
主席(庶務担当)	阿部 正浩
主席(施設担当)	野中 廣幸
主 任	菊池 久
主席(経理担当)	江田 和美
主 任	長 滝 美智子
主 任	福田 昭美
主 任	腰塚 雄二
調査部	
調査部長	高橋 一夫
資料部副部長	鈴木 敏昭
主席調査員(資料整理担当)	磯 崎 一
統括調査員	富田 和夫

平成13年度

理事 長	中野 健一
副理事 長	飯塚 誠一郎
常務理事兼管理部長	大 舘 健
管理部	
管理 幹	持田 紀男
主 任	江田 和美

主任 長 滝 美智子
主任 福 田 昭 美
主任 腰 塚 雄 二
主任 菊 池 久

調査部

調査部長 高 橋 一 夫
調査部副部長 坂 野 和 信
主任調査員(資料整理担当) 磯 崎 一
主任調査員 福 田 聖

平成14年度

理事長 桐 川 卓 雄
副理事長 飯 塚 誠 一 郎
常務理事兼管理部長 大 館 健

管理部

管 理 幹 持 田 紀 男
主 任 任 江 田 和 美
主 任 任 長 滝 美 智 子
主 任 任 福 田 昭 美
主 任 任 腰 塚 雄 二
主 任 任 菊 池 久

調査部

調査部長 高 橋 一 夫
調査部副部長 坂 野 和 信
主任調査員(資料整理担当) 磯 崎 一
統括調査員 木 戸 春 夫

II 遺跡群の立地と環境

1 地理的環境

岡部町西部工業団地造成用地にかかる遺跡群は岡部町大字榛沢地内に位置する。この地域は岡部町の中でも最も西寄りにあたり、西側は小山川を挟んで本庄市と接する。最寄の交通はJR岡部駅で、駅から西北西に約3.2kmに位置する。周囲は畑と水田の広がる農村地帯で大規模な養鶏も行われている。特に畑作ではトウモロコシとブロッコリーが広く栽培され、岡部町のブロッコリーは日本一の生産量を誇る。

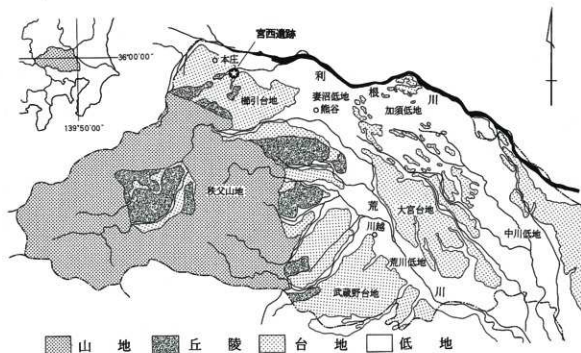
遺跡群の所在する岡部町は、埼玉県の北西部に位置する。荒川以北のこの地域は、西は神流川、北は利根川によって区切られ、東は妻沼低地に続く。全体的な傾斜は南西から北東に向かって低くなる。したがって等高線は利根川の流向にはほぼ平行し、利根川に向かって高度を減じている。

河川は荒川左岸の上武山地が分水嶺となり、南面は荒川に注ぐが、北面は利根川に流れる。本地域に

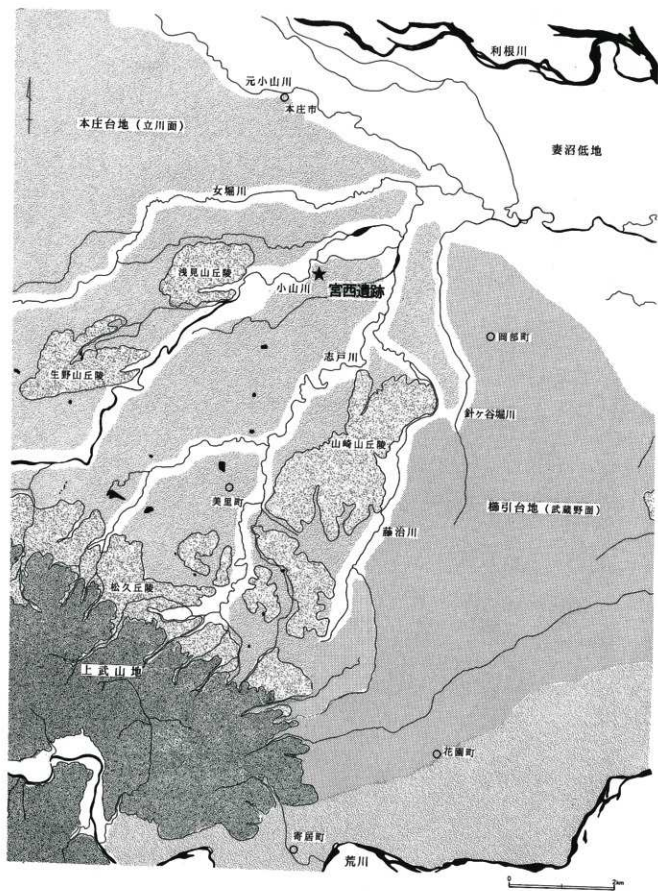
かかわる河川は女堀川、見馴川（下流で小山川）、志戸川、藤治川等があり、いずれも傾斜にしたがっておおむね北東流し、利根川に注ぐ。

本地域の上武山地はその北東縁にあたり、見馴川を境として西は御荷鉢山地、東は不動山地に分けられる。

山地に続く丘陵は山麓に沿って帯状に展開するが、この丘陵地帯も見馴川を境として西は見玉丘陵、東は松久丘陵に区分される。さらにこれらの丘陵は、小河川によって浸食され、北東方向へ伸びる半島状の地形を呈する。丘陵の標高は100～130mを計る。丘陵に続く台地部分には見馴川の西側に生野山(139m)、浅見山(105m)、東側には山崎山(117m)と呼ばれる残丘がある（山崎山残丘は北半を山崎山、南半を諏訪山と呼ばれる）。これらの残丘は丘陵の発達方向と一致することから前2者は見玉丘陵と、後者は松久丘陵と一連のものであるとされる。残丘はこの他に仙元山残丘（深谷市、観音山残丘（熊谷市）がある。



第2図 埼玉県の地形



第3図 遺跡周辺の地形区分

台地は櫛引台地と本庄台地に分けられる。いずれも扇状地形を呈し本庄台地は神流川、櫛引台地は荒川によって生成された扇状地性台地である。

本庄台地は神川町池田付近が扇頂部にあたり標高約110mを計る。そこから北東方向に高度を減じ、本庄市諏訪町では約50mとなる。扇端は急崖となって妻沼低地と接する。西は神流川を境とし、東は志戸川支流の藤治川で櫛引台地と面する。女堀川以東の地域は見馴川、志戸川などによる浸食が進んでおり、低地として扇状地と自然堤防に分類されることもあるが(註1)、自然堤防とされる部分については本来の台地が浸食を受け、その上に堆積物がたまったものと推定される。本遺跡群はこのような地形に立地している。発掘調査では遺構の確認される面はローム面であり、基本的には集落はこのような台地上に形成されている。

櫛引台地は寄居町付近を扇頂部とし扇端までの標高は約100m～35mである。西は藤治川で本庄台地に面し、南は荒川で区切られる。扇端部は西寄りの岡部町西田や岡付近では、本庄台地と同じように急崖となって妻沼低地に続く。その東の普濟寺や深谷

市西島付近は比較的緩やかに低地に移行するが、更に東の深谷市東方近辺から熊谷市西別府にかけてはまた急進となる。扇端部には湧水が多く、古来人々の生活の場となっている。台地中央部は極めて平坦で起伏に乏しく、わずかに仙元山(98m)、観音山(77m)の小残丘が見られる。河川は少なく、唐沢などの小河川が見られるが浸食は進んでいない。台地面は2面に分けられ、高い面は櫛引面、南の低い面は寄居面と呼ばれる。寄居面は荒川によって櫛引面の南側が浸食された段丘面である。

低地は妻沼低地と呼ばれ、利根川の乱流によって形成された低地である。南は前述の台地に接し、北は利根川で限られ、東は加須低地へと続く。低地内にはおおむね利根川の流向に沿って多くの自然堤防が発達している。現在でも集落はこれらの自然堤防上に営まれ、「矢島」・「大塚島」などの地名に地形の特徴が表されている。

第4図は、明治18年測量の迅速図に埼玉県地質図等を参考にして作成した地形分類図である。細部については正確さに欠ける部分もあるので、正確には専門書を参考にされたい。

2 周辺の遺跡

この地域は多くの遺跡が所在する所として知られており、特に古墳時代以降の遺跡はその量とともに内容において県内屈指のものである。調査件数も多く既に数多くの報告書等が刊行され歴史的背景についても分析が加えられている。ここでは本遺跡群周辺の遺跡について概観する。

旧石器時代の遺跡は丘陵部に立地している。現在のところ、他時期の調査の折に単独で遺物が出土しているだけである。岡部町でこの時期の遺物を出土したのは北坂遺跡1カ所である。ナイフ形石器、彫器、尖頭器が出土している。これらの遺跡は台地上でありながらもそれぞれ河川に近い台地の縁辺部周辺に立地している。深谷市を含む櫛引台地ではこの

時期の遺物は検出されていない。

縄文時代草創期～早期の遺跡は主に美里町などの丘陵部を中心に分布する。本庄市においても、浅見山残丘に見られる。岡部町では櫛引台地の縁辺部に立地する西谷遺跡、水久保遺跡から押圧縄文、爪形文等、清水谷遺跡では押型文、条痕文系土器片が、東光寺裏遺跡では微隆起線文、爪形文が出土している。この時期の遺跡は丘陵部に集中が見られ、台地部におけるありかたは旧石器のそれと共通するものがある。

前期になると丘陵部に集中する傾向は変わらないが、丘陵部における遺跡数はほぼ倍増する。またこの時期には丘陵の奥から山地にかかる場所まで遺跡

が見られるようになる。台地部では依然として密度は薄いが、荒川左岸の寄居町、花園町にも分布が広がる。また、妻沼低地に面する台地先端部、さらに妻沼低地の自然堤防上でも調査されている。

榛沢遺跡群周辺は見馴川と志戸川に挟まれた台地上に立地し、四十坂遺跡、西浦北遺跡で関山式期の住居跡、茶白山遺跡では諸磯a式期の土壌、清水谷遺跡では諸磯b式期の遺物が、東光寺裏遺跡では諸磯b式期の住居跡3軒が検出され、菅原遺跡では諸磯c式期の土壌が検出されている。北坂遺跡でも黒浜式期および諸磯式期の遺物が若干検出されている。

中期には櫛引台地縁辺部に点々と遺跡が見られるようになり、さらには今まで遺跡密度の薄かった台地内部にもその痕跡が見られる。岡部町清水谷遺跡では加曾利E式土器が、原ヶ谷戸遺跡、大寄B遺跡では加曾利E式期の埋設土器が検出され、水窪遺跡、菅原遺跡はこの時期の拠点的な集落と考えられる。北坂遺跡においても加曾利E式期の遺物が少量ながら出土している。

後・晩期の遺跡はあまり調査されていないが分布の傾向は、前代において丘陵から台地にかけて集中的に展開していたものが散在するようになり、代って台地縁辺部及び低地に広がりが見られるようになる。特に深谷市域で国道17号深谷バイパスの調査により、妻沼低地においても該期の遺跡の存在が確認されるようになった。このような現象には生活基盤の大きな変化を窺わせるものがある。岡部町原ヶ谷戸遺跡では住居跡11軒が検出され、儀礼に伴う遺物や装飾品などが多量に出土している。砂田前遺跡では堀之内式期の住居跡が1軒、上宿遺跡では同期の敷石住居が検出されている。東谷遺跡では加曾利B式が、北坂遺跡では堀之内I式土器破片が少量出土している。四十坂下遺跡では住居跡が検出されている。菅原遺跡でもこの時期の遺物が少量ながら検出されている。

弥生時代の調査事例は少ないが、引き続き前代の遺跡分布と似たような傾向を取ると思われる。現状

では浅見山丘陵および見馴川周辺の扇状地部分に比較的多くの調査事例が見られる。深谷市、熊谷市域では上敷免遺跡、横間渠遺跡等があり、上敷免遺跡では遠賀川式土器が検出されており、古い時期の資料として注目される。近辺では四十坂遺跡で再葬墓が検出され、変形十字文を施文した土器が出土している。大寄B遺跡では中期、後期の住居跡各1軒が検出されている。石蒔A遺跡では櫛描文系や吉ヶ谷系土器が出土している。

古墳時代に入ると飛躍的に遺跡数が増加する。

集落は原ヶ谷戸遺跡、大寄B遺跡、石蒔B遺跡、水窪遺跡、六反田遺跡、滝下遺跡等で前期の住居跡が検出されている。中期の住居跡は六反田遺跡、宮西遺跡、西浦北遺跡、東光寺裏遺跡等で検出されている。後期には六反田遺跡、砂田前遺跡などの大規模な集落が営まれる。

また、この周辺一帯は方形周溝墓、古墳の密に分布する地域である。石蒔B遺跡は美里町の南志渡川遺跡とともに前方後方形周溝墓がよく知られている。原ヶ谷戸遺跡や大寄B遺跡では方形周溝墓が検出されている。古式の古墳としては児玉町鷺山古墳があり、ついで美里町長坂聖天塚古墳、川輪聖天塚古墳があげられる。安光寺遺跡、千光寺遺跡や、台地先端部の四十坂遺跡、中宿遺跡にも方形墳が検出されている。

その後各所に群集墳が形成される。遺跡周辺では本庄市西五十子古墳群、東五十子古墳群、西山古墳群、千光寺古墳群、四十塚古墳群などがある。また、宮西遺跡では古墳跡が検出され、平安時代の住居跡では埴輪が甕の袖として転用されていたことなどから、榛沢地区内にも古墳群が存在することが予想される。主要な古墳としては前記の他に浅間山古墳、寅稻荷塚古墳、御手長山古墳等がある。これらの古墳を造り得る社会を支える生産基盤は、主に周辺の低地に求められる。石蒔A遺跡では、既に古墳時代前期から灌漑を目的とした施設が造られていたと見られ、早くからこの地域に、水に対する管理技

術が取り入れられていたことがわかる。このような伝統的な生産基盤の上に条里制が施行されるようになる。遺跡周辺には見玉条里、十条条里、岡部条里などがあり、調査例も増えている。

奈良・平安時代になると本遺跡群を含む小山川流域の榛沢、後榛沢に加えて新たに、櫛引台地先端部の岡地区に集落が営まれるようになる。前者には六反田遺跡をはじめとして今回調査された大寄遺跡、宮西遺跡、石苜遺跡や重要文化財に指定されている緑釉手付瓶等を出土した西浦北遺跡がある。後者には榛沢郡正倉跡に推定される県指定史跡中宿遺跡があり、7世紀後半から9世紀にかけての倉庫跡が検出されている。

中宿遺跡の南に広がる熊野遺跡は中宿遺跡とともに郡衙に関連する遺跡と推定されており、前代までと違った遺跡の有り方を示している。熊野遺跡から

は大型の掘立柱建物跡や石組井戸、道路跡のほか、多数の住居跡が検出されている。遺物では多数の畿内産土師器、唐三彩の陶枕、円面硯、帯金具など一般集落からは出土例の少ない遺物がみられ、郡衙を取り巻く集落の様相が判明しつつある。いずれ、政庁、正倉とともに周辺部を含めた具体的な郡衙像が明らかになるに違いない。

10世紀以降については本庄市大久保山遺跡、美里町向田遺跡、中宿遺跡等で堅穴住居跡、東光寺裏遺跡で羽釜などが出土している。本遺跡群の調査では大寄遺跡から該期の住居跡がまとまって検出されている。古代後半期の集落構造を具体的に窺うことのできる資料であり、その意義は大きい。

註1 『土地分類基本調査』では「見馴川低地」として細区分しているが、『新編埼玉県史別編3』においてはなされていない。

参考文献

- 埼玉県 1978 『土地分類基本調査 高崎・深谷』
埼玉県 1982 『新編埼玉県史』資料編1
埼玉県 1982 『新編埼玉県史』資料編2
堀口萬吉他 1986 「埼玉県の地形と地質」 『新編埼玉県史 別編3』 埼玉県
堀口萬吉他 1987 「荒川流域の地形」 『荒川 自然』 埼玉県
本庄市 1976 『本庄市史』 資料編
増田逸朗他 1986 『埼玉県版古墳調査報告書』 埼玉県史編さん室
美里町 1986 『美里町史』 通史編
村本達郎 1975 『埼玉県地理図集』



第4圖 遺跡分布圖

遺跡分布図の遺跡

1 沖田Ⅰ遺跡	2 沖田Ⅱ遺跡	3 沖田Ⅲ遺跡	4 大寄遺跡	5 宮西遺跡
6 西浦北遺跡	7 稲荷塚遺跡	8 六反田遺跡	9 東光寺裏遺跡	10 伊勢塚遺跡
11 石蒔A遺跡	12 石蒔B遺跡	13 地神祇A遺跡	14 地神祇B遺跡	15 原ヶ谷戸遺跡
16 四十坂遺跡	17 新井遺跡	18 水窪遺跡	19 上宿遺跡	20 滝下遺跡
21 中宿遺跡	22 砂山前遺跡	23 岡部条里遺跡	24 岡遺跡	25 樋詰遺跡
26 内手遺跡	27 熊野遺跡	28 新田遺跡	29 菅原遺跡	30 上原遺跡
31 西龍ヶ谷遺跡	32 水久保遺跡	33 西谷遺跡	34 石原山瓦窯遺跡	35 猪山祭祀遺跡
36 北坂遺跡	37 田端屋敷遺跡	38 笠ヶ谷戸遺跡	39 離濠遺跡	40 元富遺跡
41 七色塚遺跡	42 久下東遺跡	43 山根遺跡	44 大久保山遺跡	45 東谷遺跡
46 宍勝寺北裏遺跡	47 古川端遺跡	48 村後遺跡	49 日の森遺跡	50 向居遺跡
51 志渡川遺跡	52 南志渡川遺跡	53 石神遺跡	54 清水谷遺跡	55 安光寺遺跡
56 狐薮神社前遺跡	57 甘柏山遺跡群	58 神明ヶ谷戸遺跡	59 普門寺西山遺跡	60 こぶヶ谷戸祭祀遺跡
61 峯遺跡	62 用土平遺跡	63 鳥の上遺跡	64 矢島南遺跡	65 川輪聖天塚古墳
66 長坂聖天塚古墳	67 公卿塚古墳	68 前山1号墳	69 前山2号墳	70 浅間山古墳
71 寅稲荷古墳	72 御手長山古墳	73 愛宕神社古墳	A 塚合古墳群	B 御堂坂古墳群
C 鶴の森古墳群	D 東五十子古墳群	E 西五十子古墳群	F 東富田古墳群	G 浅見山古墳群
H 塚本山古墳群	I 西田古墳群	J 四十坂古墳群	K 水窪古墳群	L 白山古墳群
M 上原古墳群	N 中南古墳群	O 後榛沢古墳群	P 茶白山古墳群	Q 千光寺古墳群
R 西山古墳群	S 諏訪山古墳群	T 猪山古墳群	U 大明神古墳群	V 木部山古墳群
W 羽黒山古墳群	X 普門寺古墳群	Y 猪俣北古墳群	Z 猪俣南古墳群	

Ⅲ 遺跡群の概要

1 遺跡群の概要

岡部町西部工業団地は大字榛沢地内に位置する。この地域は本庄台地が小山川と志戸川によって開析された扇状地である。遺構の検出される面は基本的にローム面であり通常の台地でのあり方と同じであるが、遺跡は時に埋没河川を含みその埋積土によって複雑な情況を呈する。本遺跡群は榛沢地内の西寄りに当たり、小山川に面して本庄市と接している。小山川と台地との比高差は3～4mを測る。北側は小山川の古い流路によって形成されたと思われる急勾配の斜面によって低位面に続く。

この地域には六反田遺跡、西浦北遺跡を始めとして多くの遺跡が存在し、榛沢遺跡群の名称と呼ばれている。六反田遺跡は古墳時代前期から続く集落で、150軒以上の堅穴住居跡が調査されている。稲荷塚、大寄A、大寄B、西浦北、宮西の各遺跡は圍場整備に伴って一部が調査されている。

大寄A遺跡は水路部分の調査で、大寄遺跡Ⅱ区中央付近を東西に貫通する。大寄B遺跡は圍場整備によって完全に削平された部分の調査である。縄文時代中期の埋設土器、弥生時代中期及び後期の住居跡、古墳時代前期から奈良時代までの住居跡および方形周溝墓などが検出されている（佐藤1979）。この2遺跡はいずれも現在の大寄遺跡に含まれるもので、大寄B遺跡の所在した台地縁道を北限とし、南西方向に伸びる微高地全面に及ぶと考えられる。

西浦北遺跡は、縄文時代前・中期の住居跡3軒、古墳時代中・後期の住居跡2軒、奈良・平安時代の住居跡49軒、製鉄・精錬遺構14基などが調査されている（佐藤1983）。4号住居跡から出土した緑釉手付甕と灰釉長頸瓶は重要文化財に指定されている。西浦北遺跡は独立した弧状を呈する畑の高まり部分に遺構が集中していたと思われる。遺跡南側の宮西遺跡と地形は独立しているが、内容は共通する部分

が多い。今回の調査では遺跡西側の低い部分が用地内にかかっていたが、試掘調査の結果、遺構は確認できなかった。

宮西遺跡は大寄A遺跡と同じく水路部分の調査が行われ、縄文時代前・中期の住居跡4軒、古墳時代後期の住居跡15軒、平安時代の住居跡2軒が検出されている。その一部が今回の調査区内に含まれている。遺跡は前述の古流路を西限として東に広がる。東側一帯は、大寄八幡神社があり、現在も集落が広がる居住域で、遺跡の範囲も相当の広がりを持つものと推測される。今回の調査では新たに沖田Ⅰ遺跡、沖田Ⅱ遺跡、沖田Ⅲ遺跡が確認された。これらの遺跡は大寄遺跡と宮西遺跡の間にあるやや低い水田部分にあり集落跡の存在は予想されていなかったところである。試掘調査の結果、このような比較的低い部分にも小規模な微高地が確認され遺構が存在することが明らかとなった。このような小規模な微高地は開発が進んだ現在では地形図に表れることは殆どないが、沖田Ⅰ遺跡については昭和36年の地図には畑としての高まりを見ることができる。

調査で検出された各遺跡の内容は概ね以下のとおりである。

沖田Ⅰ遺跡

縄文時代前期から平安時代の遺構、遺物が検出された。縄文時代の遺構は前期の堅穴住居跡6軒、土壇7基である。遺構は検出されなかったが中期の土器片もわずかながら出土した。古墳時代に属するものは堅穴住居跡5軒、掘立柱建物跡6棟、土壇5基、溝跡10条である。いずれも後期に属する。平安時代のものは堅穴住居跡1軒、掘立柱建物跡1棟、井戸跡1基、土壇18基である。

沖田Ⅱ遺跡

土壇3基、溝跡1条、河川跡1条、ピットが検出

された。遺物は縄文時代前期及び平安時代のものが出土している。

沖田Ⅱ遺跡

縄文時代前期から近世までの遺構、遺物が検出された。縄文時代に属するものは前期の竪穴住居跡3軒である。古墳時代前期では方形周溝墓7基、竪穴状遺構5基、後期では竪穴住居跡10軒、溝跡14条である。平安時代は井戸跡1基、道路状遺構1条、溝跡2条、土壇12基である。中世以降の所産としては土壇墓が1基検出されている。

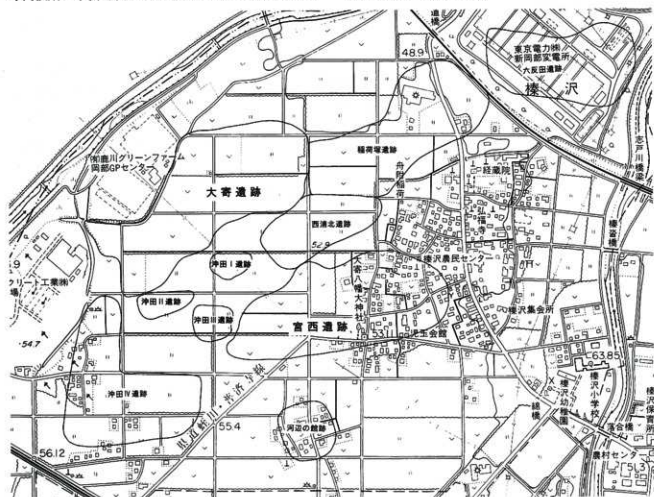
大寄遺跡

検出された遺構は、竪穴住居跡475軒、掘立柱建物跡91棟、井戸跡68基、土壇412基、茶毘跡1基、土壇墓4基、溝跡57条、楯列13条等である。

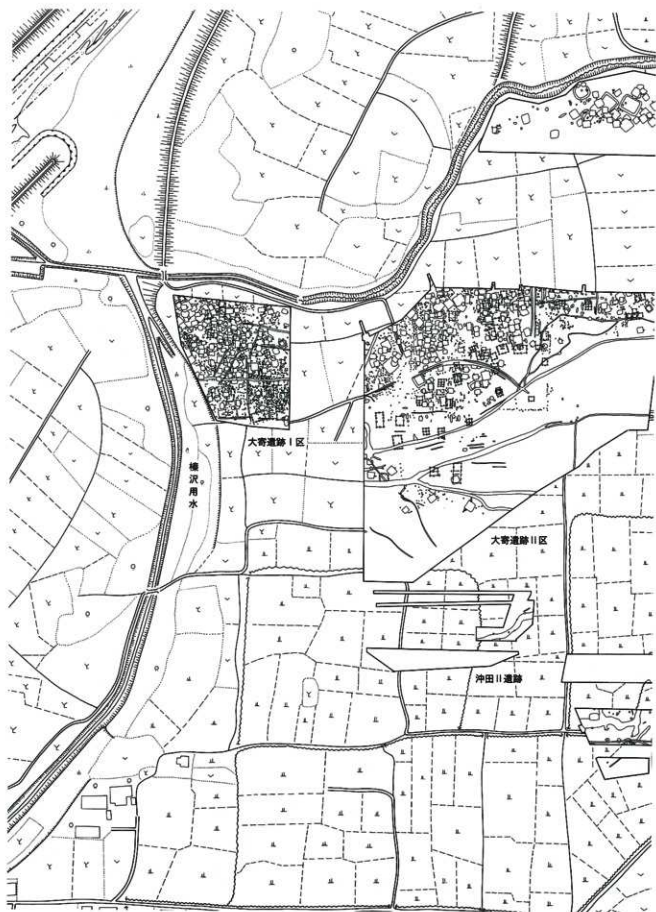
竪穴住居跡は縄文時代前期4軒、不明2軒、古墳時代後期～平安時代に至るものが469軒検出された。

縄文時代の集落は、群としての明確なまとまりをもたず散在的であった。古墳時代後期、特に6世紀前半代に位置づけられる集落は、南端の低地部に散在する。この段階では北側の台地部には集落が営まれない。北側に集落が進出するのは6世紀末葉～7世紀前後である。以降10世紀後半～11世紀に至る頃まで、安定的に集落域として機能したものと考えられる。特に10世紀後半以降の住居跡が多い点は本遺跡の最大の特徴といえ、該期の集落としては県内でも最大規模の一例である。

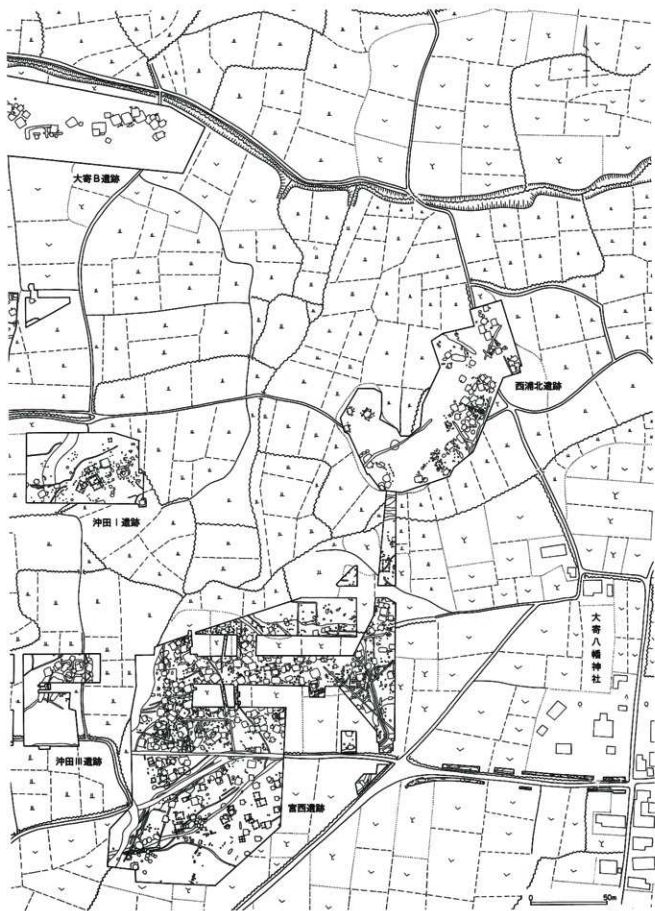
中世段階の様相はあまり明確ではない。I区南東部に方形で小型の柱穴が密集して検出され、おそらく、掘立柱建物跡群が存在したと思われるが、具体的に建物として捉えられなかった。また、中世段階と思われる井戸跡、土壇、楯列、火葬墓(茶毘跡)が検出されている。



第5図 周辺の遺跡



第6図 関連遺跡遺構分布図



2 宮西遺跡の概要

宮西遺跡は、本遺跡群の中では南東部に位置する。遺跡範囲は広大で東西約600m、南北約250mに及ぶ。遺跡のほぼ中央に大寄八幡大神社が鎮座し、これより東は榛沢の集落が展開する。西は主に畑として利用されてきた。調査区は神社の西側で遺跡範囲の西端にあたる。これより西側は畑や水田となっている。地形は現状では一見平坦に見えるが、小山川或いはその分流と思われる旧流路が幾筋かあって、それらによって大寄遺跡や沖田遺跡などが隔てられている。宮西遺跡も旧流路によって西側の沖田Ⅲ遺跡や北側の西浦北遺跡と分けられている。この流路は遺跡の西から北側に廻り込んで本遺跡の範囲を限定しているが、調査区西端で古代の住居跡を侵食していたことから、流路が形成された時期はそれより新しいことがわかる。北側は緩い傾斜で低くなり流れが緩やかであったと思われる。遺構はこの流路に限られた高い部分に東西方向に密集していた。特に堅穴住居跡の密集度が高く西側ほど顕著である。東に向かってはやや密集度は低くなるものの集落はさらに東に続く。本事業とは別に平成9年度に本調査区東側の県道の拡幅工事に伴って大寄八幡神社の前を調査している。その時には堅穴住居跡26軒、掘立柱建物跡3棟などが検出されており、集落が東に続くことは明らかである。南に向かっては僅かに標高を減じて

いく。堅穴住居跡は散在するようになり、掘立柱建物跡が多く見られる。

調査で検出された遺構は、堅穴住居跡327軒、掘立柱建物跡36棟、古墳跡1基、井戸跡21基、土壇270基、製鉄炉跡2基、粘土採掘坑、道路跡などがある。堅穴住居跡の時期は縄文時代前期、後期及び古墳時代から平安時代にわたる。

整理途中のため確定的ではないが、古墳時代でも5世紀段階の堅穴住居跡と6世紀以降の堅穴住居跡では、分布に特徴があることがわかってきた。古墳の築造に伴って生活域が影響を受けたものと考えられる。平安時代になると、堅穴住居跡のカマドの構築材に埴輪を使用した例がある。周辺の古墳のものを転用したと考えられるが、この時代既に古墳に対する意識が薄れていたことを示すものである。かわってこの時代には小金銅貨を出土する住居跡が出てくるようになる。

今回報告するのは、古墳時代から平安時代までの堅穴住居跡121軒である。第7図の網掛け部分に当り、検出された堅穴住居跡総数の約1/3にあたる。

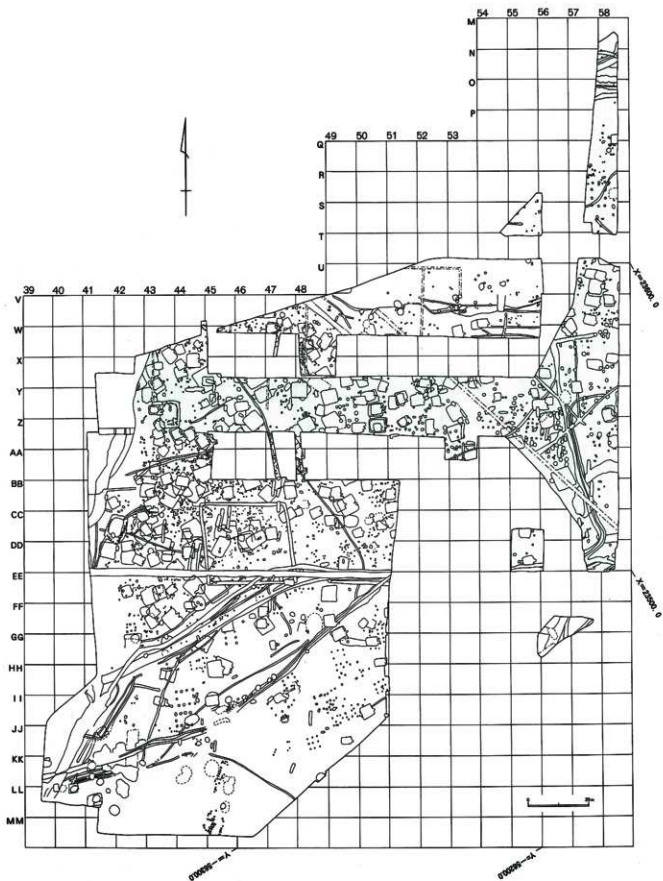
整理作業は継続中であり遺跡の具体的な内容、分析は今後の報告で行う予定である。また、整理作業の進行に伴って遺構数などの内容変更が行われる可能性のあることをお断りしておく。

Ⅱ章、Ⅲ章は、以下の報告書を一部改変のうえ転載した。

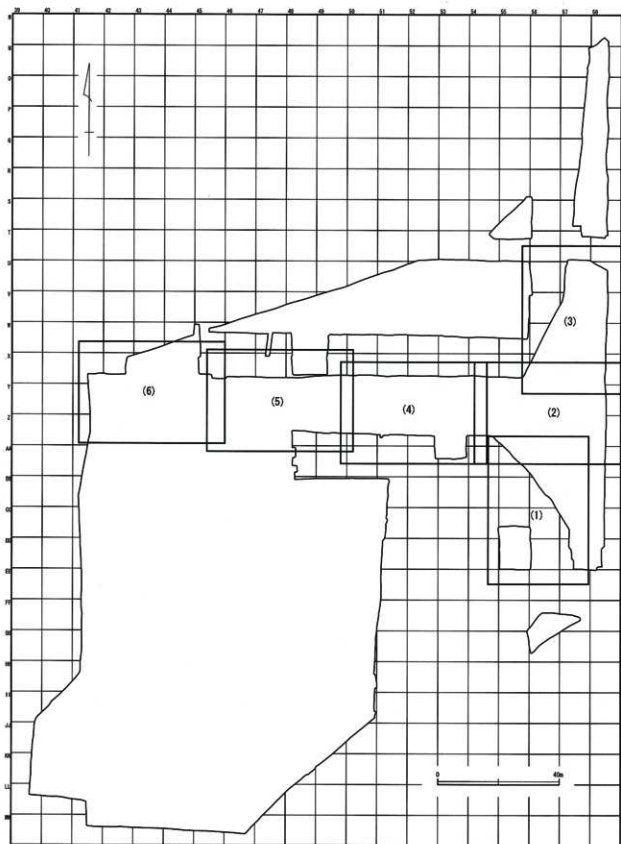
木戸春夫 1998『沖田Ⅰ／沖田Ⅱ／沖田Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第231集

富田和夫 2000『大寄遺跡Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第268集

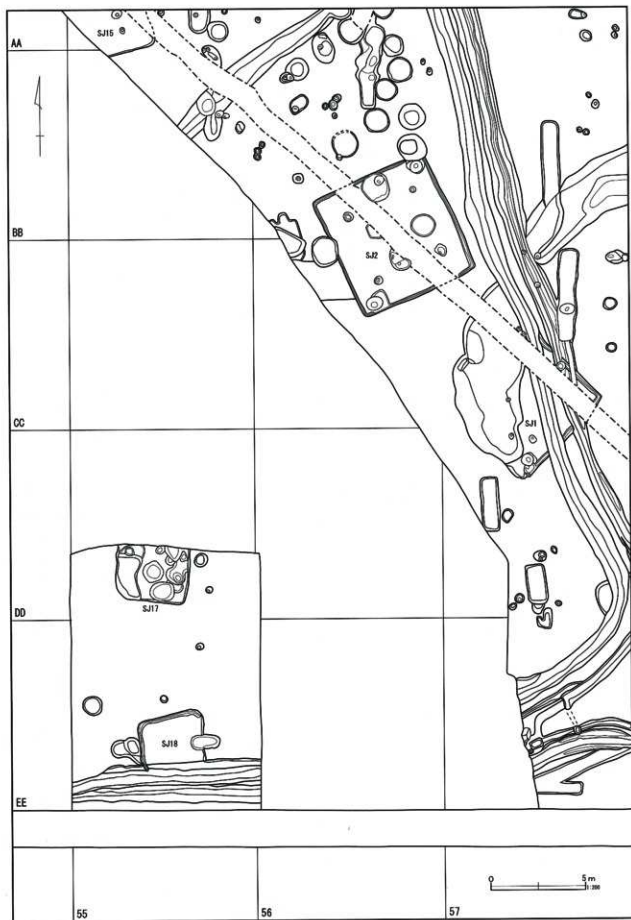
福田 聖 2002『大寄遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第280集



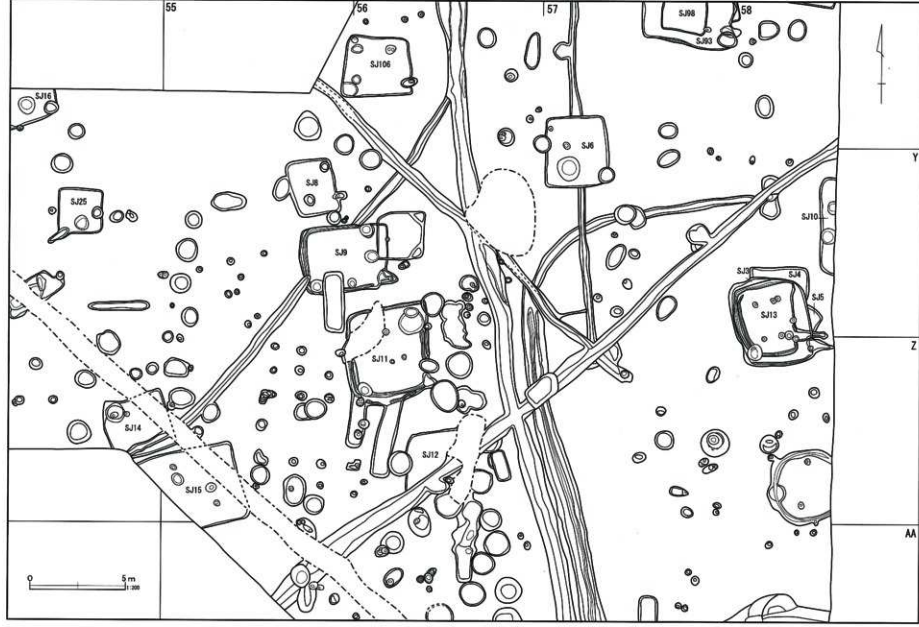
第7図 グリッド配置図



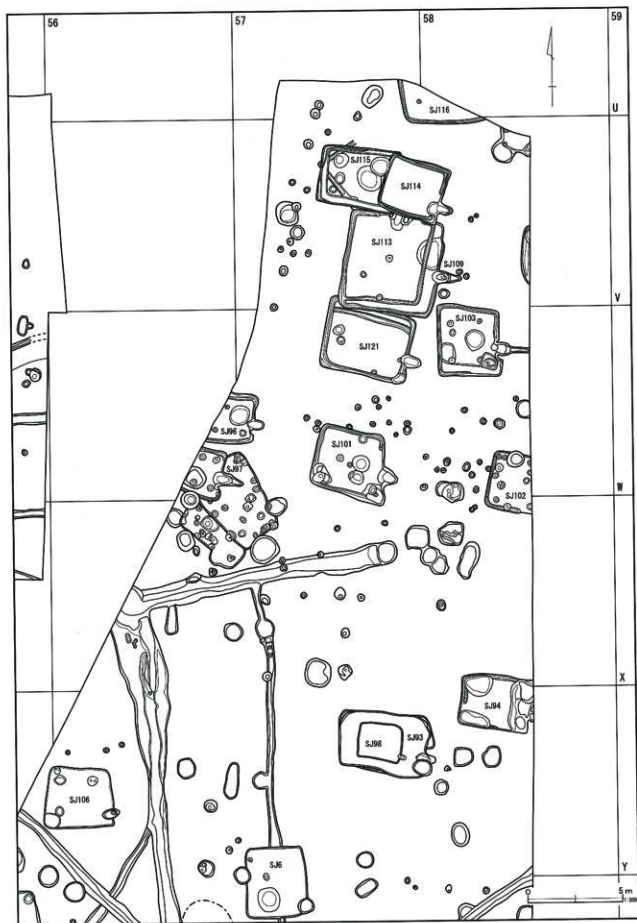
第 8 图 全测图区割图



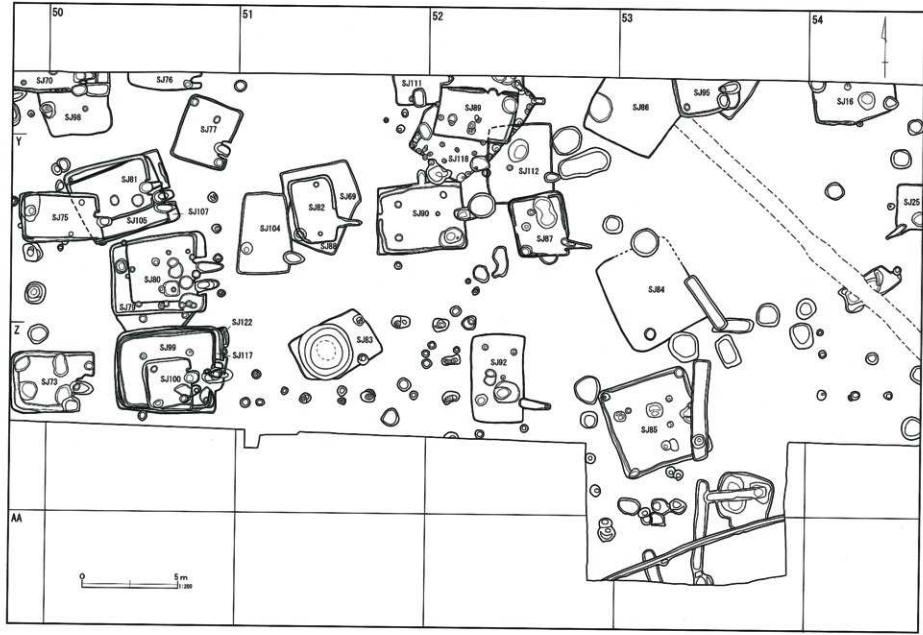
第9図 遺構全測図(1)



第10図 遺構全図(2)



第11図 遺構全測図(3)



第12図 遺跡全図(4)



第13图 遗址平面图(5)



第141图 遺構全圖(6)

IV 遺構と遺物

1 竪穴住居跡

第1号住居跡 (第15図)

調査区の東側、BB・CC-57グリッドで検出された。第1・2・3号溝跡、第1号古墳跡と重複し、これらより古い。また、北西から南東方向にかけて住居跡を貫くように攪乱が入っていたため、大半は破壊されていた。

平面形は方形か長方形不明である。規模は南東辺が5.9mである。北東辺は4.76m残っていた。深さは0.08mでごく浅い。主軸方向は南東辺でN-44°-Eを指す。

床面は平坦であるが他の遺構に壊されて良好な状態ではない。壁溝は検出された範囲では廻っていた。

炉は検出されなかった。おそらく古墳によって壊されたのであろう。貯蔵穴は南隅に検出された。大きさは62cm×60cmで、深さは42cmである。ピットは複数検出されたが主柱穴と断定できるものはなかった。

遺物は貯蔵穴上面からややまとまって出土した。土師器の高坏・小型壺・ミニチュア土器、勾玉と考えられる土製品、石製紡錘車などがある。12・13・14は混入である。時期は5世紀と考えられる。

第2号住居跡 (第17図)

調査区の東側、AA-56・57、BB-56グリッドに位置する。遺構の南東に第1号住居跡がある。第18・30・31・32・33・42号土壌と重複している。また、住居跡中央を斜めに攪乱が入っていた。北隅を第18号土壌により壊されていることからこれより古く、第42号土壌より新しいことは確認できた。他の土壌については住居跡が4cmと浅かったことから新旧関係を断定するまでに至らなかった。

平面形は方形である。規模は6.82m×6.65mで、深さは0.04mと非常に残りが悪かった。主軸方向は、N-25°-Wを指す。

床面は平坦で、東壁から南壁に沿って硬化している。壁溝はほぼ全周する。

炉は中央部のやや西寄りに検出されたが、東半分は攪乱によって壊されており、焼土も僅かに残っている程度であった。貯蔵穴は南隅に検出された。大きさは92cm×72cmで、深さは44cmである。遺物は入っておらず覆土中に小片が混じっていただけである。主柱穴は壁から1.2~1.5mほど離れた位置に掘り込まれていた。4本とも床面から70~80cmとかなり深い。北西壁際のピットには底面に粘土塊が入っていた。土塊と絡んでおり本住居跡には伴わない可能性もある。

遺物は、貯蔵穴周辺などから豊富に出土した。高坏・小型壺・甌・甕類に加え、ミニチュア土器や小玉、紡錘車などがある。時期は5世紀と考えられる。

第3号住居跡 (第20図)

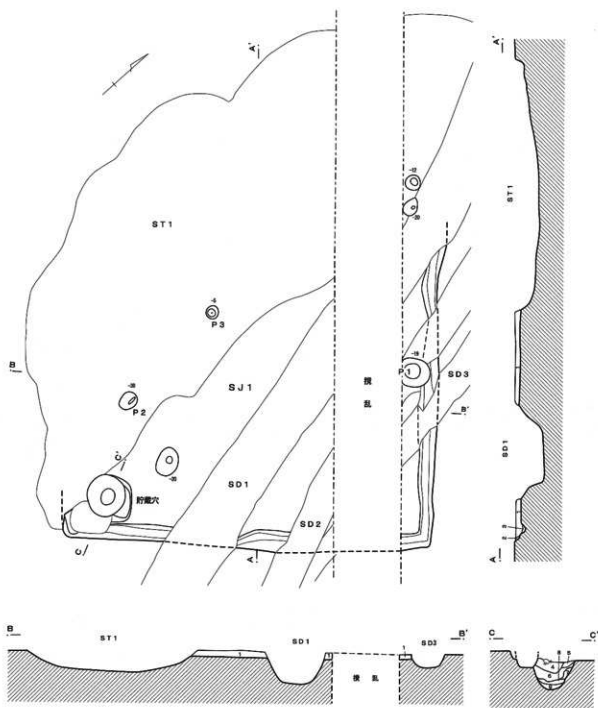
調査区東端の、Z-56、AA-56・57グリッドに位置する。カマドの煙道先端は調査区際接する位置にある。第4・5・13号住居跡と重複関係にあり、本住居跡が最も新しい。また北東側に近接して第10号住居跡がある。

平面形はカマドに対して横長の長方形で、規模は長軸4.78m、短軸4.1m、深さは0.17mである。主軸方向は、N-82°-Eを指す。

床面は平坦で、貼り床や硬化面等は確認できなかった。壁溝は南壁沿いに検出された。

カマドは東壁の南寄りに設置されていた。燃焼部は壁を掘り込んで造られていた。火床面は床面よりやや低くなる程度で、煙道との境もはっきりしない。長さは全体で1.4mである。袖は検出できなかった。

住居跡南西隅に70cm×80cm、深さ48cmほどの土壌状の掘り込みが検出された。貯蔵穴であろうか。他



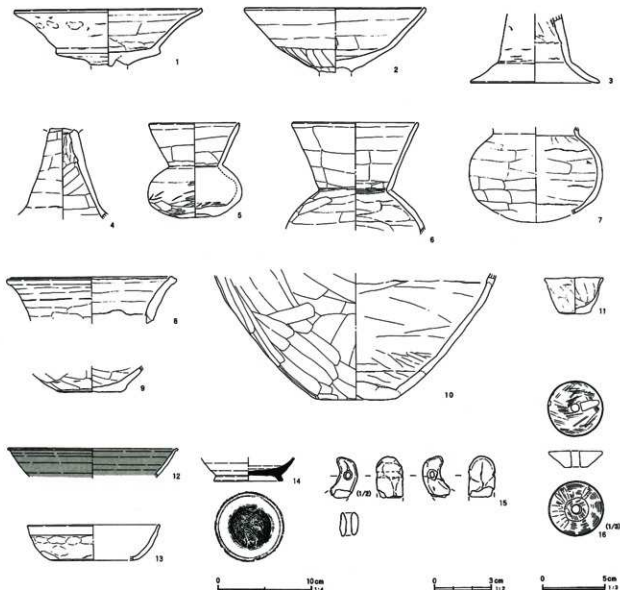
第1号住居跡

- | | |
|--------|--------------------|
| 1 暗褐色土 | ローム粒・ロームブロック少量・焼土粒 |
| 2 暗褐色土 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色土 | ロームブロック含む・埋戻し土 |
| 4 暗褐色土 | ローム粒状少量・焼土粒少量・遺物含む |

- | | |
|---------|-----------------------|
| 5 暗褐色土 | やや灰色をおびる・ローム粒・焼土粒 |
| 6 暗黄褐色土 | ローム粒・ロームブロックをまみべんなく含む |
| 7 暗褐色土 | ロームブロック・焼土粒少量 |
| 8 暗褐色土 | ロームブロック少量 |
| 9 暗黄褐色土 | 3層積層・ローム多量 |

本図縮尺=1/25 0 2m

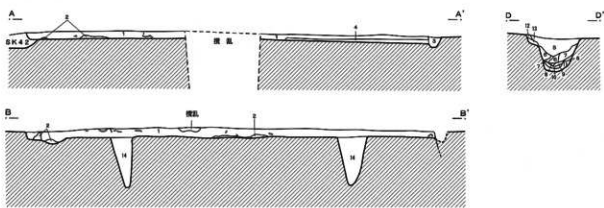
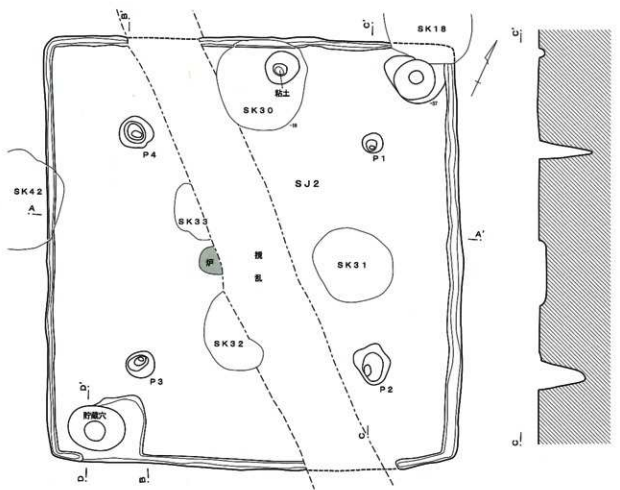
第15図 第1号住居跡



第16図 第1号住居跡出土遺物

第2表 第1号住居跡出土遺物観察表

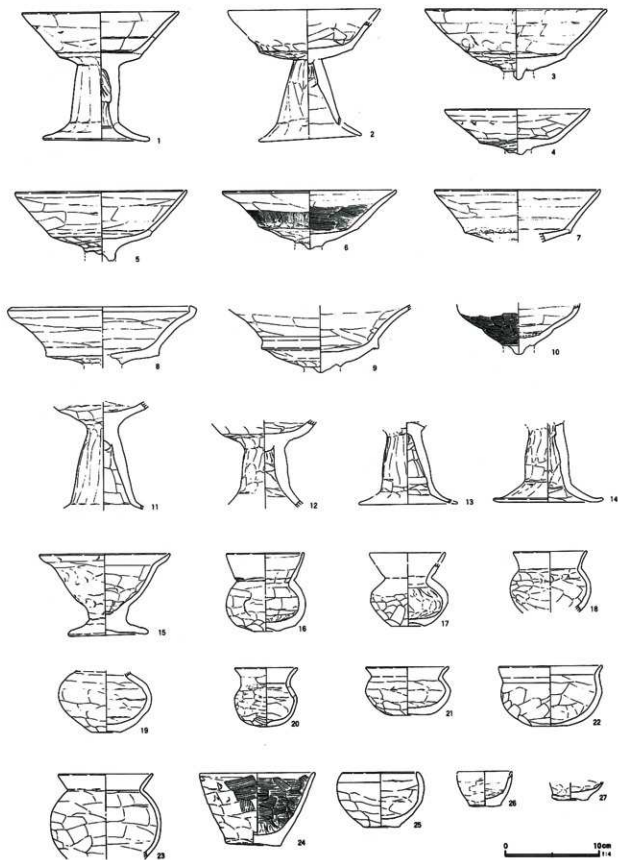
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	土師器 高坏	(19.8)	(6.0)	—	AEH	普通	橙	75	SJ1 No. 18, SJ1・ST1
2	土師器 高坏	(19.0)	(6.7)	—	ADEH	普通	にぶい赤褐	25	SJ1・ST1
3	土師器 高坏	—	(7.2)	(13.6)	AEH	普通	にぶい橙	40	SJ1 No. 5
4	土師器 高坏	—	(9.4)	—	BEH	普通	橙	90	SJ1 P1
5	土師器 小型壺	9.6	9.9	3.2	ABEH	普通	にぶい赤褐	100	SJ1 No. 1
6	土師器 小型壺	13.2	(11.7)	—	AEH	普通	にぶい赤褐	70	SJ1 No. 3, SJ1・ST1, SJ3
7	土師器 壺	—	(9.1)	—	AEH	普通	にぶい橙	30	頸部径約9.0cm
8	土師器 壺	(18.0)	(4.9)	—	EHJ	不良	にぶい褐	30	SJ1 No. 2, SJ1・ST1
9	土師器 壺	—	(2.7)	7.0	AEH	普通	にぶい褐	70	SJ1 No. 17
10	土師器 壺	—	(13.2)	8.4	DEH	不良	灰褐	40	SJ1 No. 2
11	土師器 ミニチュア	(6.0)	3.8	3.0	AEH	普通	にぶい黄橙	65	SJNo. 6 指紋が明瞭に残存
12	灰軸 碗	(18.0)	(3.1)	—	E	良好	灰白	15	SJ1・ST1つけかけ 東濠
13	土師器 坏	(14.0)	3.7	(9.2)	ADEH	不良	橙	25	SJ1・ST1
14	須恵器 高台付坏	—	(2.5)	7.3	EHJ	良好	灰黄	90	SJ1・ST1
15	土製勾玉	現存長2.2cm 幅1.4cm		—	EH	普通	にぶい橙	60	SJ1・ST1 孔径0.4cm 重さ2.7g
16	石製紡錘車	長径4.3cm 短径1.9cm 厚さ1.3cm		孔径1.3cm	—	—	暗オリーブ灰	100	ST1 No. 24 重さ31.3g



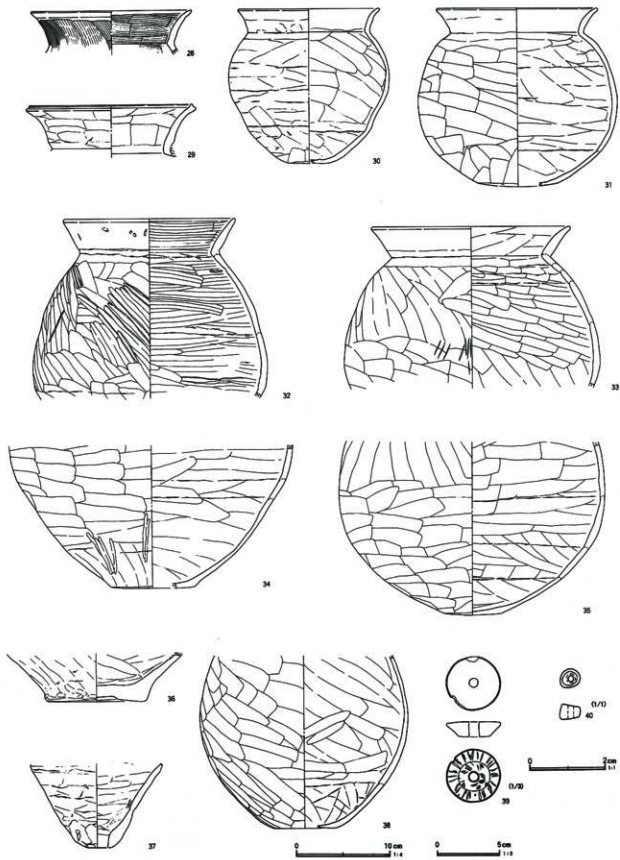
- 第2号住居跡
- | | | | |
|--------|--------------------------------|---------|---------------|
| 1 暗褐色土 | 白色微細粒、焼土粒、炭化粒含む、ローム粒微量 | 8 黒褐色土 | やや粘質、ローム粒微量 |
| 2 暗褐色土 | 白色微細粒、焼土粒、炭化粒含む、ローム粒やや多い | 9 暗褐色土 | ローム粒多量 |
| 3 暗褐色土 | 白色微細粒、焼土粒、炭化粒含む、ローム粒、ロームブロック多量 | 10 暗褐色土 | 混入物少量 |
| 4 暗褐色土 | ロームブロック多量、炭化層 | 11 暗褐色土 | 混入物少量、ローム粒多量 |
| 5 暗褐色土 | 白色粒、焼土粒、ローム粒少量 | 12 暗褐色土 | ローム粒 |
| 6 暗褐色土 | 白色粒、焼土粒少量 | 13 暗褐色土 | 色調やや暗い、ローム粒少量 |
| | | 14 暗褐色土 | ローム粒多量、焼土粒多量 |



第17図 第2号住居跡



第18图 第2号住居跡出土遺物(1)



第19图 第2号住居跡出土遺物(2)

第3表 第2号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色澤	残存率(%)	備考・出土位置
1	土師器 高坏	16.5	13.7	11.3	BH	普通	にぶい赤褐	90	No.35
2	土師器 高坏	—	(12.0)	—	EH	普通	にぶい橙	70	No.37
3	土師器 高坏	19.2	7.5	—	BH	普通	にぶい赤褐	95	No.39
4	土師器 高坏	15.3	(4.8)	—	EHJ	普通	にぶい橙	60	
5	土師器 高坏	18.2	(7.4)	—	BH	普通	にぶい橙	90	No.51
6	土師器 高坏	18.2	(6.2)	—	BEH	普通	橙	95	No.34
7	土師器 高坏	(17.6)	(5.5)	—	EH	普通	明赤褐	60	No.52, 貯蔵穴
8	土師器 高坏	(18.8)	(6.0)	—	BEH	普通	橙	30	
9	土師器 高坏	—	(7.0)	—	ABEHJ	普通	明赤褐	60	No.14
10	土師器 高坏	—	(5.3)	—	BDEH	不良	にぶい黄橙	15	No.19
11	土師器 高坏	—	(11.2)	—	EHJ	普通	明赤褐	80	No.16
12	土師器 高坏	—	(9.0)	—	AEHJ	不良	にぶい橙	60	No.18
13	土師器 高坏	—	(8.5)	—	ABEH	普通	にぶい赤褐	70	No.13
14	土師器 高坏	—	(8.2)	11.6	EH	普通	明赤褐	90	No.28
15	土師器 高坏	13.8	8.6	8.5	ABEH	普通	にぶい橙	90	No.12
16	土師器 小型壺	(8.0)	8.2	2.4	ADEHJ	普通	にぶい赤褐	60	
17	土師器 小型壺	—	(6.5)	3.5	ABEH	普通	にぶい赤褐	80	No.10
18	土師器 小型壺	(7.8)	(6.4)	—	AEH	普通	にぶい赤褐	30	No.5
19	土師器 小型壺	—	(6.6)	3.0	BDEH	普通	にぶい赤褐	90	No.36
20	土師器 小型壺	6.6	6.2	—	ABEH	普通	にぶい赤褐	90	No.9
21	土師器 鉢	8.8	5.0	4.4	ADEH	普通	にぶい橙	95	No.47
22	土師器 鉢	11.0	6.4	3.7	ABEH	普通	にぶい褐	90	No.8
23	土師器 小型壺	(10.0)	(9.0)	—	EH	普通	にぶい褐	15	No.44
24	土師器 鉢	12.2	7.8	5.8	BDEH	普通	にぶい橙	80	No.38
25	土師器 鉢	(7.8)	5.8	3.8	DEH	普通	明赤褐	60	No.42
26	土師器 ミニチュア	—	(3.5)	3.7	BEH	普通	にぶい赤褐	60	No.52
27	土師器 ミニチュア	—	(2.0)	3.7	ABEH	普通	にぶい褐	60	貯蔵穴
28	土師器 甕	(17.0)	(4.7)	—	ABEH	普通	橙	50	
29	土師器 甕	(17.0)	(5.5)	—	BDEH	普通	明赤褐	25	No.15
30	土師器 甕	(15.0)	16.4	(4.4)	BEHJ	普通	灰褐	40	No.46
31	土師器 甕	(17.0)	18.8	(8.4)	EHJ	普通	褐灰	60	胴部径約21cm
32	土師器 甕	(18.0)	(18.9)	—	AEH	普通	明赤褐	30	No.22~25
33	土師器 甕	(21.0)	(17.0)	—	ABEH	普通	橙	20	P-1 No.26 胴部径約27cm
34	土師器 甕	—	(15.8)	(9.0)	EHJ	普通	灰褐	25	外面剥落箇所多い
35	土師器 甕	—	(18.2)	6.0	BEHJ	普通	黒褐	40	胴部径約28cm やや歪み有り
36	土師器 甕	—	(5.1)	10.6	DEHJ	普通	にぶい黄褐	90	No.20
37	土師器 甕	—	(8.9)	2.2	ADEH	不良	にぶい褐	40	No.29
38	土師器 甕	—	(18.0)	(5.4)	BHJ	普通	にぶい褐	15	胴部径約22cm
39	石製紡錘車	長径4.3cm	短径2.5cm	厚さ1.2cm	重さ30.2g		オリーブ灰	95	孔径0.8cm
40	小玉	直径0.55cm	厚さ0.4cm	孔径0.15cm	重さ0.15g		暗緑灰	100	No.54

には本住居跡に伴うと考えられるピットなどは検出されなかった。

遺物は4軒重複しているため混入が見られる。6・7は混入である。坏、羽釜が本住居跡に伴うものと見られ、埴輪も他の住居跡の例から本住居跡で転用されたものと考えられる。

時期は10世紀後半から11世紀と考えられる。

第4号住居跡(第20図)

調査区の東端 Z-58、AA-58グリッドに位置する。第3・5・13号住居跡と重複関係にあり、第3・13号住居跡より古い。第5号住居跡との新旧関係

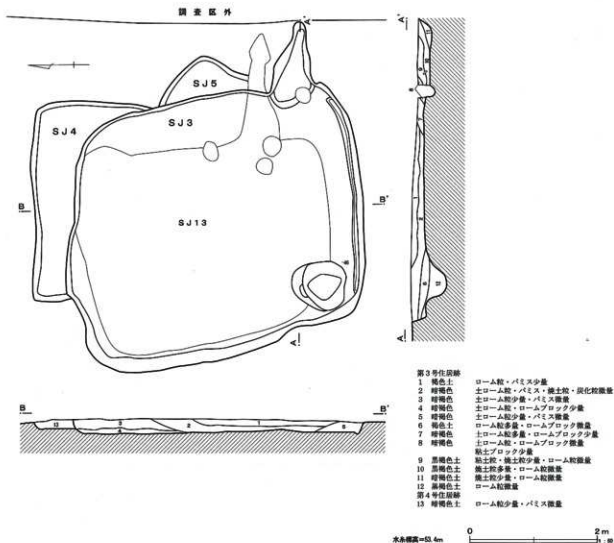
は不明である。住居跡の大半を第3号住居跡によって壊されており、北側と東側の一部が残っていた。

平面形は長方形と推定される。規模は北壁が3.14mあり、東壁は1.88m残存していた。深さは0.10mで浅い。主軸方向は、N-89°-Wを指す。

床面は平坦である。壁溝は検出されなかった。

カマドや炉は、破壊された部分が広いため検出されなかった。柱穴等も確認されなかった。

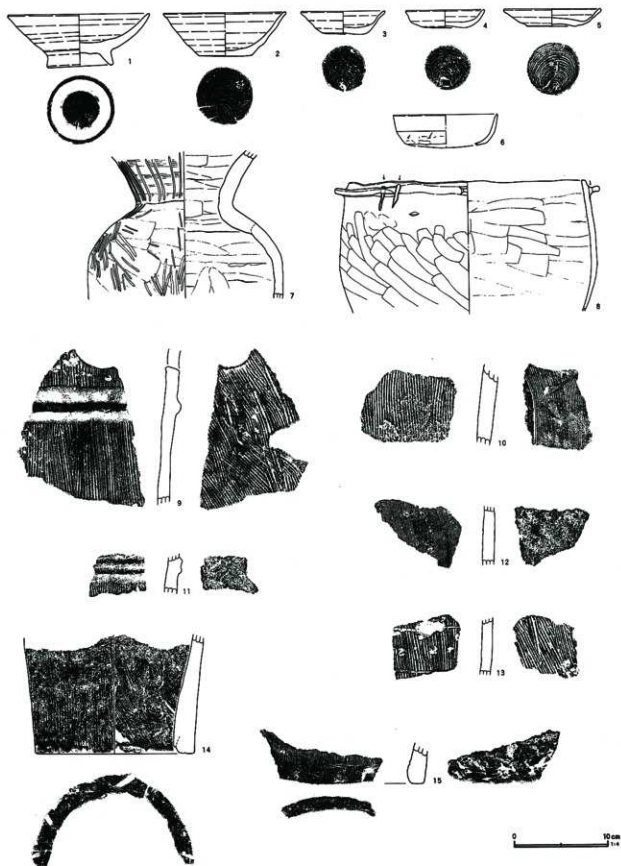
遺物は本住居跡から直接出土したものはないが、第3号住居跡から出土したものの中に5世紀頃と思われる遺物が混入していることから、本住居跡あるいは第5号住居跡のものと考えられる。



第20図 第3・4・5号住居跡

第4表 第3号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	ククロ 高台付碗	15.1	5.7	6.8	ABDEH	不良	にぶい黄橙	80	No. 20
2	ククロ 坏	(13.0)	4.7	5.5	ABDH	不良	にぶい黄橙	40	No. 2
3	ククロ 小皿	8.9	2.5	4.8	ADEHJ	不良	橙	95	No. 14
4	ククロ 小皿	8.3	1.9	4.5	DEHJ	不良	にぶい褐	80	
5	ククロ 小皿	(10.2)	1.9	5.4	ABDEH	普通	にぶい橙	60	No. 18
6	土師器 坏	(11.0)	(3.3)	-	EH	普通	にぶい橙	15	
7	土師器 甕	-	(15.4)	-	ABDEH	普通	にぶい赤褐	70	No. 6 頸部径約10cm
8	土師器 羽釜	(25.0)	(13.7)	-	BEHJ	普通	にぶい赤褐	40	No. 30・31 ツノ部分穿孔2箇所
9	円筒埴輪	-	-	-	ADEHJ	不良	にぶい橙	破片	No. 13 円形透孔
10	円筒埴輪	-	-	-	ADEHJ	不良	橙	破片	No. 10
11	円筒埴輪	-	-	-	ADEHJ	不良	橙	破片	
12	円筒埴輪	-	-	-	ADEHJ	普通	橙	破片	
13	埴輪	-	-	-	DEHJ	普通	にぶい褐	破片	沈線2条有 形象片?
14	円筒埴輪	-	(12.6)	(17.0)	DEHJ	不良	橙	30	No. 8, 12
15	円筒埴輪	-	-	-	ADHJU	普通	橙	破片	No. 21 歪み大きい



第21图 第3号住居跡出土遺物

第5号住居跡（第20図）

調査区の東端 Z-58、AA-58グリッドに位置する。第3・4・13号住居跡と重複関係にあり、第3・13号住居跡より古い。第4号住居跡との新旧関係は不明である。

第3・4号住居跡との重複部分が多く、北東の角が残存していただけなので平面形は不明だが、方形ないしは長方形であろう。規模は不明であるが北壁は1.06m、直行する方向が0.9m残存していた。深さは0.05mと浅い。主軸方向は、北壁でN-43°-Wを指す。

床面は平坦でやや軟弱である。壁溝やピットなどは検出されなかった。

カマドや炉は検出されなかった。

遺物は本住居跡から直接出土したものはないが、第3号住居跡から出土したものの中に5世紀頃と思われる遺物が混入していることから、本住居跡あるいは第4号住居跡のものと考えられる。

第6号住居跡（第22図）

調査区の東側、X・Y-57グリッドに位置する。第40・64・71号土壌、第6号溝跡と重複関係にあり、本住居跡が最も古い。

平面形は、長方形である。規模は長軸3.72m、短軸3.24m、深さは0.07mでごく浅い。主軸方向は、N-1°-Wを指す。

床面は平坦で、壁溝は検出されなかった。カマドや炉、柱穴は検出できなかった。

遺物は、多彩で須恵器や埴輪片、羽口まで見られる。1・2や埴輪は混入と考えられる。住居跡の形態の特長から3・4が伴うものと考えておきたい。羽口は比較的大型で外面には縦方向の凹線が何条かみられる。また、鉄製品で剣のミニチュアと考えられるものが出土した。時期を細かく推定できるものはないが5世紀と捉えておきたい。

第7号住居跡（第23図）

調査区の東側、Y・Z-55・56グリッドに位置する。第11号住居跡、第79号土壌、第1号掘立柱建物跡と重複関係にあり、本住居跡は前2者より新しいが、後者との新旧関係はつかめなかった。

平面形は長方形である。規模は長軸4.40m、短軸3.76m、深さは0.1mであった。主軸方向は、N-85°-Eを指す。

床面はほぼ平坦である。壁溝は北辺及び西辺の北半分では確認されなかった。

カマドは東壁の南寄りに造られ、壁を掘り込んでいる。火床面は床面とほぼ同じ高さである。覆土中には焼土、炭化粒などは多くなかったがカマド内には構築材と考えられる赤く焼けた粘土ブロックが多数出土した。袖は検出できなかった。ピットは複数検出されたが柱穴と断定できるものはなかった。

遺物は、土師器片、甕、刀子、雁股鎌などが出土している。3は混入である。刀子は住居跡の北西隅、鎌は北側から出土した。時期は、現時点では幅をもたせて10世紀後半～11世紀と考えておきたい。

第8号住居跡（第25図）

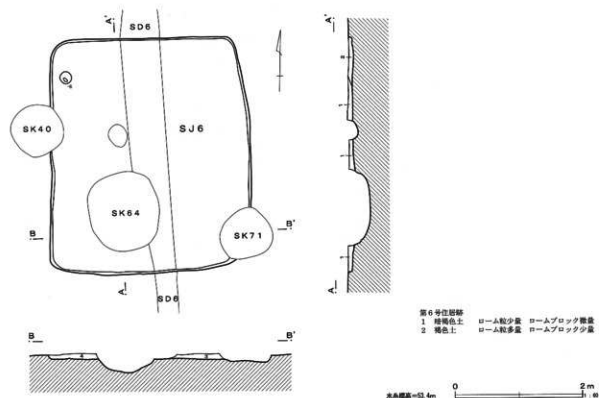
調査区の東側、Y-55グリッドに位置する。すぐ南側に第9号住居跡がある。第80・129号土壌と重複関係にあり、これらよりも新しいと思われる。

平面形は長方形である。規模は長軸3.04m、短軸2.43m、深さは0.09mでごく浅い。主軸方向は、N-77°-Eを指す。

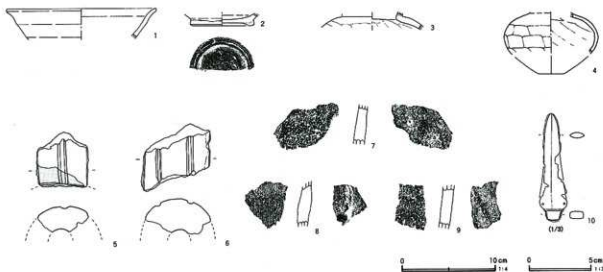
床面はほぼ平坦であるが、カマド全面から右側にかけてやや掘りすぎてしまった。壁溝は検出されなかった。覆土は自然堆積である。

カマドは東壁の南寄りに造られ、壁を掘り込んで突出している。長さ0.74m、幅0.3mである。火床面が床面より若干掘り窪められている。袖は検出できなかった。

柱穴は検出されなかった。北隅に直径50cmほどの円形で土壌状の掘り込みを検出した。また、カマド



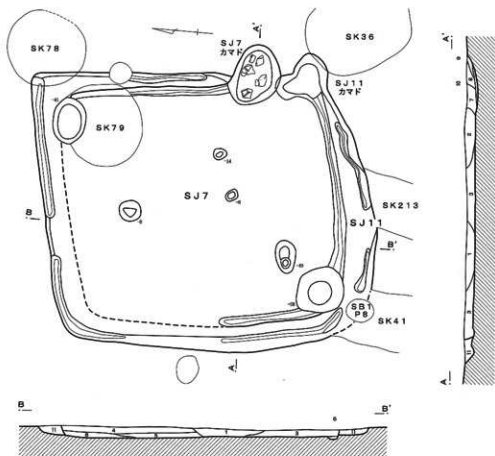
第6号住居跡
 1 緑褐色土 ローム粒少量 ロームブロック少量
 2 褐色土 ローム粒多量 ロームブロック少量



第22図 第6号住居跡・出土遺物

第5表 第6号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	ロケロ 碗	(16.0)	(3.3)	-	DEH	普通	橙	25	
2	須恵器 高台付碗	-	(1.3)	6.8	AEHJ	普通	にぶい褐	50	酸化焰焼成
3	土師器 小型壺	-	(2.0)	-	EH	普通	にぶい赤褐	15	頸部径約6.4cm
4	土師器 小型壺	-	(4.3)	-	DEH	普通	橙	10	胴部最大径約10cm
5	羽口	残存長5.8cm	幅5.5cm	-	AEJ	普通	にぶい褐	破片	
6	羽口	残存長7.1cm	幅7.4cm	-	AEJ	普通	にぶい褐	破片	厚さ2.6cm
7	埴輪	-	-	-	BDEHJ	不良	にぶい褐	破片	厚さ3.7cm
8	埴輪	-	-	-	BDEHJ	不良	にぶい褐	破片	
9	埴輪	-	-	-	BDEHJ	不良	にぶい褐	破片	
10	鉄製品	長さ8.4cm	幅2.2cm	厚さ0.4~0.55cm			重さ13.3g	70	床面 銅形ミニチュアか



- | | | | | |
|--------|----------------------|------------------|--------------------------|------------------|
| 第7号住居跡 | 1 暗褐色土 | ローム灰多量・ロームブロック少量 | 7 黒褐色土 | 焼土粒・炭化粒少量・ローム灰少量 |
| 2 暗褐色土 | ローム灰少量・炭化粒・焼土粒・パミス粒 | 8 灰褐色土 | 炭化粒少量・焼土粒 | 8 灰褐色土 |
| 3 暗褐色土 | ローム灰少量・ロームブロック・炭化粒少量 | 9 暗褐色土 | ローム灰・ロームブロック多量・焼土粒・炭化粒少量 | 9 暗褐色土 |
| 4 黒褐色土 | ローム灰少量・炭化粒・焼土粒少量 | 10 褐色土 | ローム灰・ロームブロック多量 | 10 褐色土 |
| 5 暗褐色土 | ローム灰多量・ロームブロック少量 | 11 号住居跡 | ローム灰・ロームブロック多量 | 11 号住居跡 |
| 6 暗褐色土 | ローム灰・焼土粒・炭化粒少量 | 12 黒褐色土 | ローム灰・炭化粒少量・焼土粒少量 | 12 黒褐色土 |

基本規模=33.5m



第23図 第7・11号住居跡

の対面西壁寄りに長軸0.62m、短軸0.58m、深さ25cmほどの床下土壌を確認した。

遺物は、灰陶陶器、土師器甕などが出土している。時期は10世紀と考えられる。

第9号住居跡 (第26図)

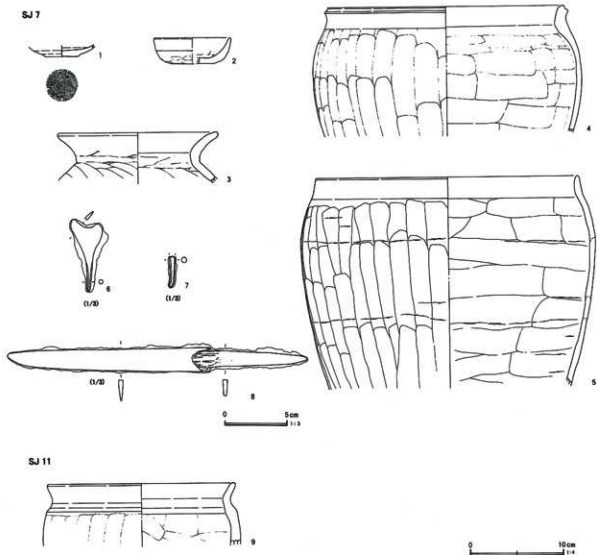
調査区の東側、Y-55・56グリッドに位置する。第2号竪穴状遺構、第43号土壌、第7号溝跡と重複関係にある。第2号竪穴状遺構、第7号溝跡より新しく第43号土壌より古い。

平面形は長方形である。規模は長軸4.66m、短軸3.56m、深さは0.11mでごく浅い。主軸方向は、N

-86°-Eを指す。

床面は平坦である。壁溝はカマド側の東壁及び南北壁の東側では検出されなかった。覆土は自然堆積である。

カマドは東壁南寄りの角の部分に造られていた。壁を掘り込んでいる。火床面は床面とほぼ同じ高さで地山の焼土化は認められなかった。袖は左袖が24cmほど残存していたが右袖は確認できなかった。住居跡の角が内側に入り込んでおり、この部分を袖としてカマドが構築されていた可能性が考えられる。柱穴と考えられるものは確認できなかった。



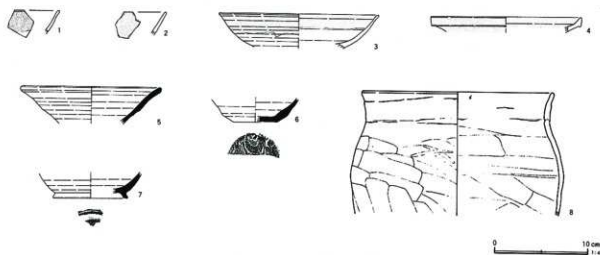
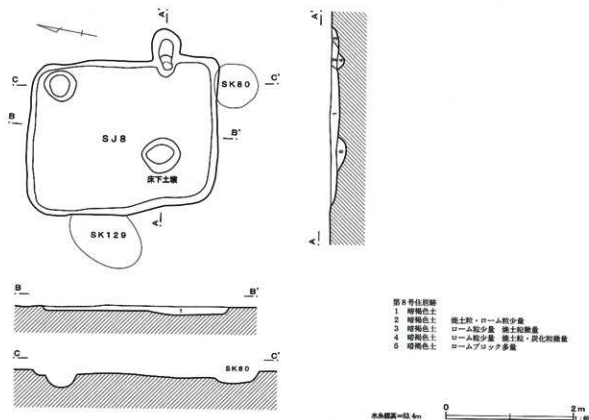
第24図 第7・11号住居跡出土遺物

第6表 第7号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	ロクロ 小皿	—	(1.3)	3.5	EH	普通	にぶい橙	70	カマド
2	土師器 坏	(8.0)	2.8	—	DEH	普通	にぶい橙	50	
3	土師器 甕	(17.0)	(5.4)	—	ADEHJ	普通	にぶい橘	30	
4	土師器 甕	(24.8)	(13.6)	—	ABCDE	普通	にぶい橙	25	No.18
5	土師器 甕	(28.0)	(22.3)	—	DEHJ	不良	にぶい橘	80	No.1・2・4・5・7・9・24・カマド
6	鉄製品	長さ5.8cm	最大幅2.5cm	厚さ0.2cm	胴部径0.35cm	重さ14.2g		破片	雁股鎌
7	鉄製品	長さ2.4cm	直径0.5cm	重さ1.2g				破片	棒状
8	鉄製品	長さ23.8cm	幅1.9cm	厚さ0.4cm	重さ58.1g			破片	刀子(短刀)

第7表 第11号住居跡出土遺物観察表

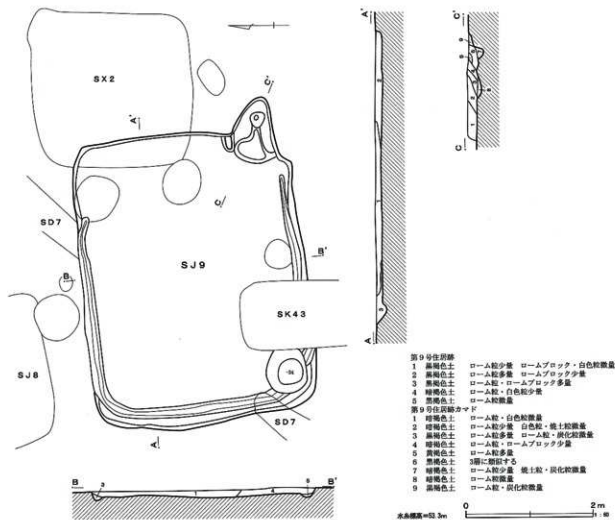
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
9	土師器 甕	(20.0)	(6.6)	—	EHJ	普通	にぶい赤褐	10	カマド



第25図 第8号住居跡・出土遺物

第8表 第8号住居跡出土遺物観察表

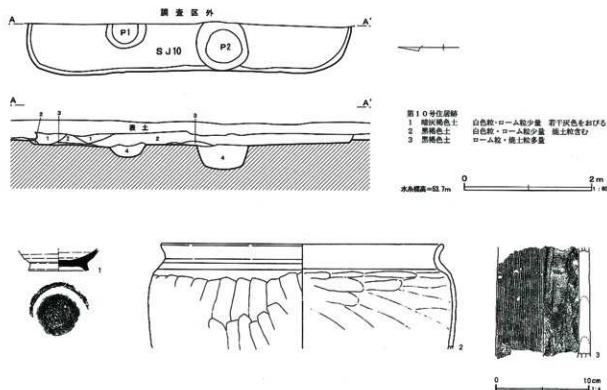
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	灰釉 碗	—	—	—	H	良好	褐灰	破片	つけがけ 東濃
2	灰釉 碗	—	—	—	E	良好	灰白	破片	つけがけ 東濃
3	灰釉 碗	(17.0)	(3.6)	—	E	良好	黄灰	15	つけがけ 糸切り 東濃江 H-72
4	灰釉 長頸瓶	(16.0)	(1.6)	—	H	良好	灰オリーブ	10	口縁部のみ的小片 ハケヌリ 東濃
5	須恵器 坏	(15.0)	(3.9)	—	EH	普通	灰白	25	体部下半の焼き歪み大きい
6	須恵器 坏	—	(2.6)	(5.6)	HJ	良好	暗灰黄	40	
7	須恵器 高台付坏	—	(2.8)	(8.0)	EH	普通	灰	15	
8	土師器 甕	(20.0)	(13.0)	—	EHJ	普通	灰黄褐	30	



第26図 第9号住居跡・出土遺物

第9表 第9号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	灰釉 碗	-	-	-	E	良好	灰白	破片	つけかけ ヘラキリ 西遠江~三河
2	須恵器 坏	(14.0)	(5.4)	-	EHJ	良好	灰	10	
3	須恵器 高台付碗	-	(3.9)	7.4	EHJ	普通	灰	60	
4	土師器 甕	(24.0)	(5.6)	-	AEHJ	普通	橙	10	No. 4
5	土師器 甕	-	(5.4)	(12.0)	AEHJ	普通	橙	20	



第27図 第10号住居跡・出土遺物

第10表 第10号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	須恵器 高台付碗	-	(2.3)	(7.4)	AEFH	普通	褐灰	80	Pit 1
2	土師器 甕	(30.0)	(11.0)	-	AHJ	普通	にぶい赤褐	15	Pit 1
3	埴輪	-	(11.5)	-	ABCDE	普通	にぶい黄橙	30	形状埴輪

遺物は須恵器の坏、高台付碗、土師器甕、灰釉碗が出土している。時期は10世紀と考えられる。

第10号住居跡 (第27図)

調査区の東端、Y-58グリッドに位置する。他の遺構との重複はないが、南西方向1.5mに第3・13号住居跡が近接している。住居跡の東側の大部分は調査区外に出ている。

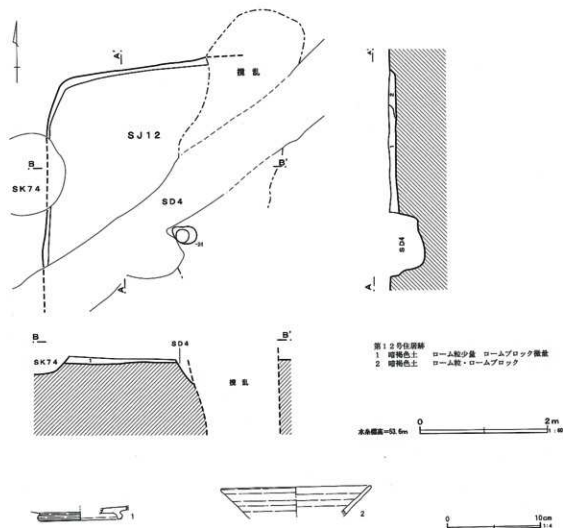
平面形は長方形乃至は方形と推定される。規模は西辺が5.20mで東西軸は0.8m検出されただけである。深さは0.1mで浅い。主軸方向は、N-0°-Eを指す。

床面はほぼ平坦でピットとピットの間がやや固くなっていた。壁溝は検出されなかった。覆土は現表

土下の耕作によってかなり攪乱されていたが、黒褐色土の単層に近く、床面に所々ローム混じりの堆積土が薄く認められた。自然堆積と判断してよいと思われる。

カマドは検出されなかった。調査区外の東壁に造られているものと考えられる。ピットは2基検出されたが、いずれの覆土にもローム粒に混じって多量の焼土が入っていた。埋め戻しの可能性が高いと考えられるが、柱穴と考えられるものは確認されなかった。

遺物は土師器の甕、須恵器高台付碗、埴輪片が出土している。埴輪は他の住居と同じくカマドの袖などに転用されたものであろう。2の甕は小破片から復元したため口径が大きめになったかもしれない。



第28図 第12号住居跡・出土遺物

第11表 第12号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	灰釉 皿	-	(1.4)	(8.0)	E	良好	灰白	15	ハケヌリ ヘラキリ 猿投 K-90
2	ロクロ 坏	(16.0)	(3.2)	-	EH	普通	にぶい黄橙	30	

時期は遺物が少ないためよくわからない。ここでは10世紀と考えておきたい。

第11号住居跡 (第23図)

調査区の東側、Y・Z-55・56グリッドに位置する。第7号住居跡、第36・41・78・79・213号土壌、第1号掘立柱建物跡と重複関係にあり、第7号住居跡、第36・78・79号土壌より新しく、第41・213号土壌より古い。第1号掘立柱建物跡との新旧関係はつかめなかった。

平面形は長方形である。規模は長軸5.34m、短軸4.38m、深さは0.1mで浅い。主軸方向は、E-79°-Eを指す。

床面は中央部を第7号住居跡によって壊されているため四周の壁際だけが残っている状態であった。壁溝は切れざれであるがほぼ全体に廻っている。覆土は焼土粒を僅かに含む黒褐色土で、これが堆積してから第7号住居跡が掘り込まれたようである。

カマドは南東角に造られていた。壁を掘り込み、やや斜め方向に突出している。袖は第7号住居跡構

築の際に壊されたため検出できなかった。

南西隅に75cm×70cm、深さ58cmほどの隅丸方形を思わせる掘り込みが検出された。貯蔵穴であろうか。他に床面でピットが複数検出されたが、柱穴と断定できるものはなかった。

遺物は土師器甕がカマドから出土している。時期は本住居跡より新しい第7号住居跡が10世紀であることからそれ以前となろう。

第12号住居跡 (第28図)

調査区の東側、Z-56グリッドに位置する。第74号土壌、第4号溝跡と重複関係にあり、本住居跡が最も古い。検出されたのは北西側の約1/4ほどである。

平面形は方形ないしは長方形である。規模は西辺2.76m、北辺2.30mが残存していた。深さは最も深いところでも0.1mである。主軸方向は、N-1°-Eを指す。

床面は西側がやや低くなっていた。壁溝は見られなかった。

カマド等の施設は確認されなかった。住居跡のほぼ中央に40cm×25cmほどのピットが検出され、中から僅かながら遺物が出土した。本住居跡に伴うものと考えておきたい。

遺物はロクロ土師器坏、灰胎陶器皿が出土している。時期は10世紀と考えておきたい。

第13号住居跡 (第29図)

調査区の東側、Y-58、Z-58グリッドに位置する。第3・4・5号住居跡と重複関係にあり、第3号住居跡より古く、その他のものより新しい。

平面形は長方形で、カマドの設置される東壁の左隅すなわち住居跡の北東隅が半円形に張り出す特徴を持つ。規模は長軸4.00m、短軸3.36m、深さは0.25mである。主軸方向は、N-81°-Eを指す。

床面はほぼ平坦で、貼り床は認められない。壁溝は東壁際を除き確認された。西壁際では2本確認さ

れたことから拡張している可能性もある。覆土は自然堆積である。

カマドは東壁の中央より南側に造られ、壁を掘り込み突出している。火床面は床面とほぼ同じ高さで、段を持って煙道となっている。然焼部は長さ0.72m、煙道は長さ1.14mである。袖は検出されなかった。

北東隅にある張り出しは径0.9mで外側に30cmほど張り出している。ピットは複数確認されたが住居跡の大きさとピットの配置から柱穴と断定できるものはなかった。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器碗が出土している。1は混入で、4は第13号住居跡の可能性が高い。時期は10世紀後半である。

第14号住居跡 (第30図)

調査区の東側、Z-54・55グリッドに位置する。第7号溝跡と重複関係にあり、本住居跡のほうが古い。また、住居跡北東部分を攪乱によってだいぶ壊されている。南西の角は調査区外に出ている。

平面形は方形である。規模は長軸3.46m、短軸3.14m、深さは0.1mで浅い。主軸方向は、E-72°-Eを指す。

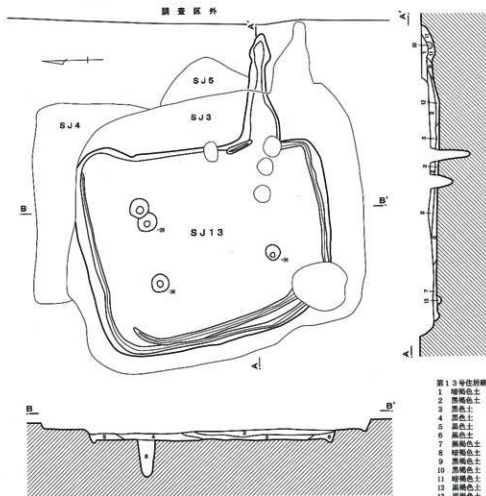
床面はほぼ平坦で、壁溝は検出されなかった。覆土は自然堆積である。

カマドや炉は検出できなかったが、北西隅に直径1mほどの土壌状の掘り込みが確認された。貯蔵穴の可能性がある。覆土は暗褐色土で焼土粒を少量とローム粒を含むものであった。ほかに床面には施設は確認されず、柱穴も不明である。

遺物は1点だけ土師器の甕が出土したが、混入の可能性が高い。時期は他の住居跡の形態や分布を考えると5世紀の遺構ではないかと考えられる。

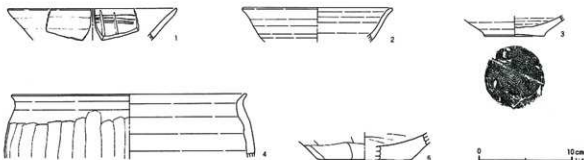
第15号住居跡 (第31図)

調査区の東側、Z-54・55、AA-55グリッドに位置する。北側には第14号住居跡が同じ方向である。他の遺構との重複はないが、住居跡の北東部分を攪



- 第13号住居跡
- 1 暗褐色土 ローム粒少量・焼土粒微量
 - 2 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多量
 - 3 黒色土 ローム粒少量、ロームブロック微量
 - 4 黒色土 ローム粒少量、ロームブロック少量
 - 5 黒色土 ローム粒少量、ロームブロック微量
 - 6 黒色土 ローム粒微量
 - 7 黒褐色土 ローム粒微量
 - 8 暗褐色土 ローム粒多量
 - 9 暗褐色土 焼土粒、ローム粒少量
 - 10 暗褐色土 焼土粒少量、ローム粒微量
 - 11 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック多量
 - 12 暗褐色土 焼土粒多量、炭化粒微量
 - 13 暗褐色土 ローム粒多量

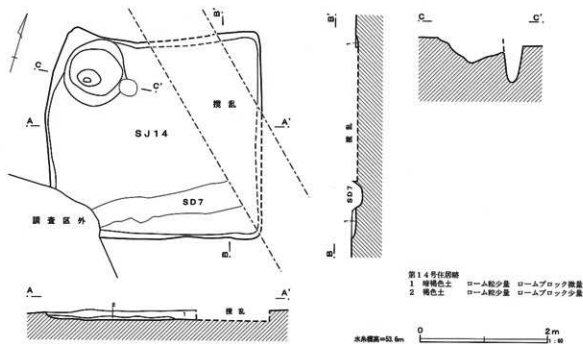
水深標高一2.6m



第29図 第13号住居跡・出土遺物

第12表 第13号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	土師器 高坏	(18.0)	(3.3)	-	ABEHJ	普通	明赤褐	10	内面沈線施文後ヘラミガキ カマド No.1
2	ロクロ 碗	(16.0)	(3.6)	-	EH	良好	暗灰黄	15	
3	ロクロ 碗	(2.2)	6.5	-	EH	良好	灰黄褐	90	
4	土師器 甕	(25.0)	(6.8)	-	ABEHJ	普通	明褐	15	
5	土師器 甕	-	(3.0)	(10.0)	BEH	普通	にぶい赤褐	20	



第30図 第14号住居跡

乱によって壊されている。また、住居跡の西側から南側の西半分は調査区外に出ている。

平面形は長方形と推定される。規模は長軸5.26m、短軸4.30m、深さは0.05mでごく浅い。主軸方向は、 $N-79^{\circ}-E$ を指す。

床面は平坦で、壁溝は認められなかった。覆土は暗褐色土単層であった。浅いためよく観察できなかったが、自然堆積と考えられる。

カマドや炉は認められなかった。ピットは複数検出されたが柱穴と断定できるものはなかった。

遺物は土師器の高台付碗、須恵器の甕の小破片が出土している。土器以外にも鉄製品が出土している。時期は10世紀代と考えておきたい。

第16号住居跡 (第32図)

調査区の東側、X-54グリッドに位置する。第85・87・102号土壌と重複関係にあり、すべての土壌より古い。北側の約半分は調査区外に出ている。

平面形は方形ないしは長方形と推定される。規模は東西方向が4.34mあり、南北方向は2.24m検出

された。深さは0.10mで浅い。主軸方向は、 $N-85^{\circ}-E$ を指す。

床面は南西側がやや低くなり、この部分に対応するように南西隅にのみ壁溝が認められたが、覆土の状態からこの部分は埋め戻されて貼床状にされた可能性がある。

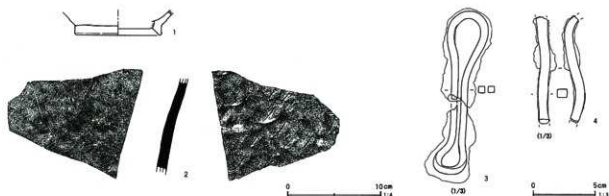
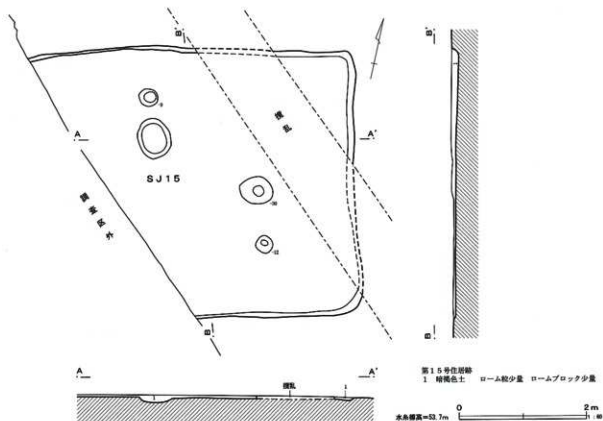
カマドは検出されなかった。柱穴なども認められなかった。

遺物は土師器の坏・甕・台付甕の台部、ロクロ土師器の坏が出土している。石製品では砥石が出土している。ただし、土壌などの重複がかなりあることから混入しているものも多い。時期は9世紀中葉～後半である。

第17号住居跡 (第33図)

調査区の東側、CC-55グリッドに位置する。北側半分が調査区域外にかかる。他の遺構との重複はない。

平面形は方形ないしは長方形になると推定される。規模は東西方向が3.90m、南北方向が2.90m検出さ



第31図 第15号住居跡・出土遺物

第13表 第15号住居跡出土遺物観察表

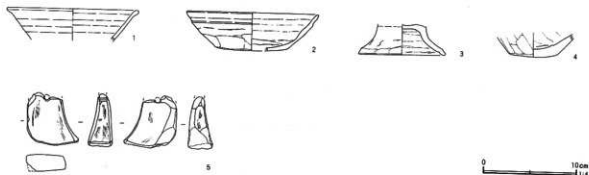
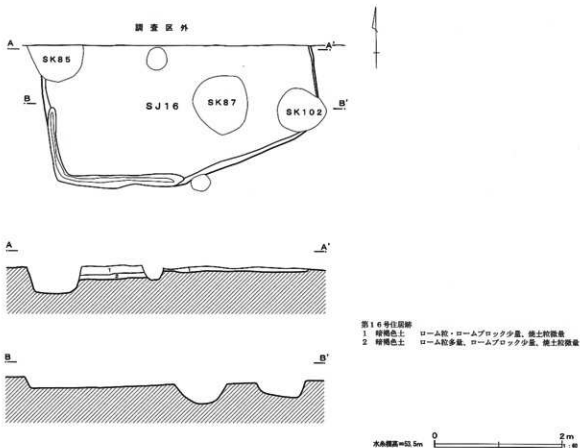
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	ロクロ 高台付碗	—	(2.7)	(9.0)	ADEH	不良	にぶい赤褐	10	磨耗著しい
2	須恵器 甕	—	—	—	EHJ	良好	褐灰	破片	
3	鉄製品	全長12.8cm 断面一辺0.5cm		重さ103.3g	—	—	—	100	棒輪状不明品
4	鉄製品	残存長8.5cm 断面一辺0.7cm		重さ17.6g	—	—	—	破片	角棒状屈曲不明品

れた。深さは0.06mでごく浅い。主軸方向は、南壁でN-82°-Wを指す。

床面はほぼ平坦であるが、あまりしまりがなく比較的軟らかい。壁溝はなかった。床面下は床下土壌

が複数検出されたが、住居跡の掘り方との区別が困難なものも多く見られた。

カマドなどの施設は調査した範囲からは検出されなかった。



第32図 第16号住居跡・出土遺物

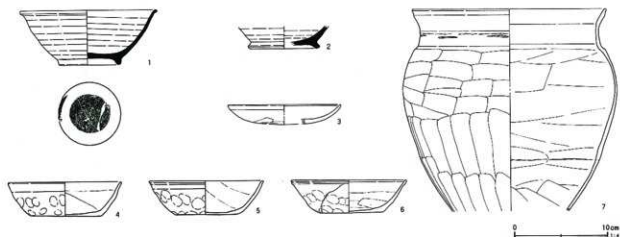
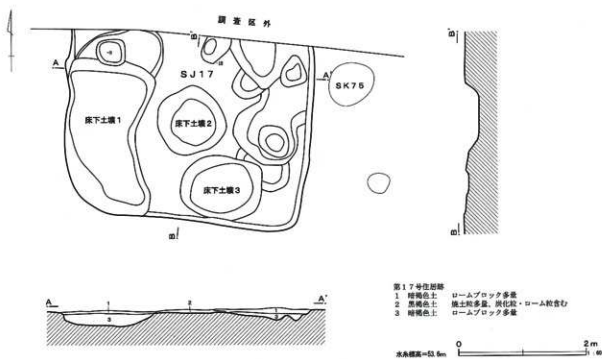
第14表 第16号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	口クロ 坏	(14.0)	(3.4)	—	AEHJ	普通	橙	20	
2	土師器 坏	(14.0)	4.0	(7.6)	EH	普通	にぶい黄橙	15	
3	土師器 台付甕	—	(3.2)	9.2	EH	普通	にぶい褐	90	
4	土師器 甕	—	—	5.0	AEHJ	普通	褐灰	75	
5	砥石	残存長5.6cm 幅5.5cm 厚さ2.7cm 重さ64.3g					—	70	穿孔一ヶ所、孔径0.6cm

遺物は土師器の坏・甕、須臾器の坏などが出土している。3は床下土壌出土のもので混入である。時期は9世紀中葉～後半である。

第18号住居跡 (第34図)

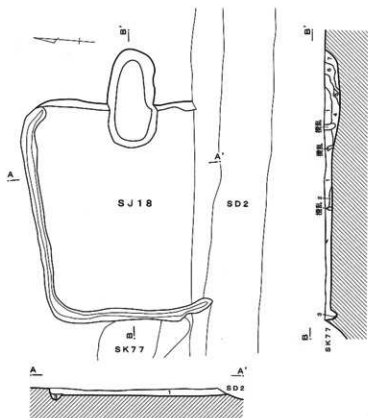
調査区の東側、DD-55グリッドに位置する。第77号土壌と西側で僅かに重複しこれより古い。第2号溝跡には南壁側をすべて壊されている。平面形は



第33図 第17号住居跡・出土遺物

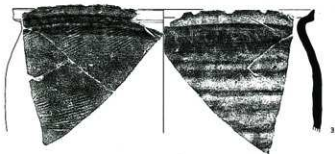
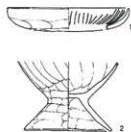
第15表 第17号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	須恵器 高台付碗	14.6	5.7	(6.6)	BCDE	良好	灰黄	90	
2	須恵器 高台付碗	-	(2.4)	(7.6)	AEHJ	普通	灰黄	30	
3	土師器 坏	(12.0)	2.0	-	DEH	普通	橙	30	床下土層1
4	土師器 坏	12.0	3.6	7.3	BCDE	良好	にぶい褐	100	No.1
5	土師器 坏	12.1	3.0	6.6	ABCDEF	良好	明赤褐	100	No.2
6	土師器 坏	12.1	3.5	6.8	ABCDE	普通	にぶい黄橙	95	
7	土師器 甕	(20.6)	(21.3)	-	BDEH	普通	にぶい赤褐	70	



- 第18号住居跡
- 1 暗褐色土 ロームブロック少量 焼土粒・炭化粒微量
 - 2 褐色土 ローム粒多量
 - 3 暗褐色土 ローム粒
- クマド
- 4 暗褐色土 焼土粒・炭化粒多量 ローム粒
 - 5 褐色土 焼土粒・炭化粒多量 ローム粒
 - 6 暗褐色土 焼土粒少量 暗灰褐色・粘質土
 - 7 暗褐色土 焼土粒多量 焼土ブロック・炭化物

水平距離=0 2m

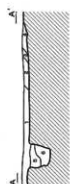
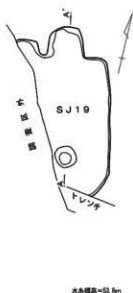


0 10cm

第34図 第18号住居跡・出土遺物

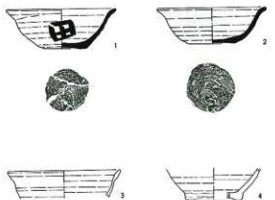
第16表 第18号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	土師器 坏	(12.8)	2.3	-	ABCDE	普通	にぶい黄橙	25	内面暗文
2	土師器 台付甕	-	(7.2)	9.2	ABCDE	普通	にぶい赤褐	75	
3	須恵器 甕	(32.0)	(13.0)	-	EFHJ	良好	灰	15	
4	須恵器 甕	-	-	-	EHJ	良好	灰		破片



- 第19号住居跡
- 1 暗褐色土 ローム粒少量 焼土粒微量
 - 2 暗褐色土 ローム粒多量
 - 3 暗褐色土 ローム粒少量 焼土粒多量
 - 4 暗褐色土 粘土ブロック・焼土粒多量
 - 5 黒褐色土 ローム粒微量
 - 6 黒色土 ローム粒少量

水糸線長=5.2m



第35図 第19号住居跡・出土遺物

第17表 第19号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	須恵器 坏	11.7	4.2	4.7	EHJ	良好	灰黄褐	85	No.1 体部に外面墨書「田」
2	須恵器 坏	(11.6)	3.7	5.2	EHJ	良好	黒褐	40	No.2 外面全面に黒色付着物
3	ロクロ 坏	(12.0)	(2.9)	-	EHJ	普通	にぶい黄橙	20	
4	ロクロ 高台付坏	-	3.4	6.0	AEHJ	普通	にぶい黄褐	15	

長方形になるものと思われる。規模は長軸3.54mで、短軸は2.94m 残存していた。深さは0.1m でごく浅い。主軸方向は、N-85°-Eを指す。

床面は平坦である。壁溝はカマド側の東壁を除いて掘り込まれていたものと思われる。覆土は自然堆積である。

カマドは東壁の中央寄りに壁を掘り込んで造られる。火床面は床面より10cmほど低く、外側に90cmほど張り出している。規模は1.56m×0.6mである。袖は検出できなかった。貯蔵穴や柱穴は確認されなかった。

遺物は土師器の坏・台付甕、須恵器の甕が出土している。時期は8世紀後半と考えられる。

第19号住居跡（第35図）

調査区の東側、AA-56、BB-56グリッドに位置する。他の遺構との重複関係はないが、すぐ東側に第2号住居跡がありそれより新しい。住居跡の西側

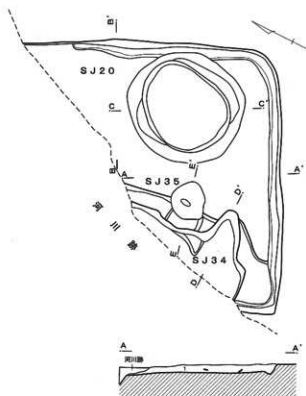
大部分は調査区外に出ている。

平面形は長方形になるものと推定される。規模は長軸2.62mで、短軸は1.18m 検出された。深さは0.05mでごく浅い。主軸方向は、N-15°-Wを指す。

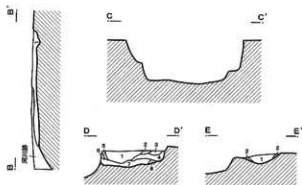
床面はほぼ平坦で、貼床はされていなかった。壁溝はない。覆土は自然堆積である。

カマドは北壁のやや東寄りに造られ、僅かに壁を掘り込んでいる。火床面は床面とほぼ同じ高さである。袖は左袖が22cmほど残存していた。右袖は住居の角部分を掘り残してそこに構築されていたと考えられる。カマド正面の南壁際に柱穴が1基確認された。住居跡に伴うものと考えられる。

遺物はロクロ土師器の坏・高台付碗、須恵器の坏が出土している。1は外面に「田」の墨書がある。時期は9世紀中葉～後半と考えられる。



第36図 第20・34・35号住居跡



- 第20号住居跡
1 黄褐色土 白色粘多量 焼土粒・炭化粒・ロームブロック少量
第34号住居跡
1 暗褐色土 焼土粒・炭化粒多量
2 暗褐色土 焼土ブロック多量
3 暗褐色土 焼土粒含む・炭化粒多量
4 暗褐色土 焼土粒・炭化粒少量 ローム粒
5 暗褐色土 ローム粒多量
6 暗褐色土 ローム粒多量 炭化粒少量 ローム粒
7 暗褐色土 ロームブロック多量
8 黄い黄褐色土 ロームブロック多量
第35号住居跡
1 暗褐色土 焼土粒多量 炭化粒
2 暗褐色土 ローム粒多量

第20号住居跡 (第36図)

調査区の西側、X-42・43、Y-42グリッドに位置する。第34・35号住居跡と重複関係にある。本住居跡が一番古いと考えられる。ここは遺跡の西端にあたり住居跡の西側半分は斜めに新しい河川流路によって削り取られている。

平面形は長方形と推定される。長軸は4.2m 残存しており、短軸は4.0mである。深さは0.11mでこ

く浅い。主軸方向は、N-23°-Wを指す。

床面は平坦で、全体に硬くしまっていた。壁溝は東壁の北側で切れていた。覆土は黒褐色土単層であるが自然堆積と考えられる。

カマドは検出されなかった。径1.7m、深さ70cmの土壌状の掘り込みが検出されたが本住居跡に伴うものか確認できなかった。他にピットなどは検出されなかった。

第18表 第20号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	須恵器 坏	(13.0)	3.4	(7.2)	EFHJ	普通	灰白	10	
2	須恵器 坏	-	(2.2)	(6.4)	EHJ	良好	灰黄褐	30	
3	土師器 坏	12.2	3.0	6.8	ABCDE	普通	にぶい褐	90	No.1
4	土師器 坏	(13.0)	3.0	(9.2)	EHJ	不良	明黄褐	10	磨耗著しい
5	土師器 坏	(13.0)	(3.1)	-	ADEH	普通	にぶい黄橙	15	No.11
6	土師器 坏	(13.4)	(3.3)	-	ABEH	普通	にぶい橙	15	
7	土師器 坏	(12.0)	(3.2)	-	ADEH	不良	にぶい黄橙	40	No.11 内面暗文(全周しない)
8	土師器 坏	11.6	4.0	-	ABCDE	普通	明褐	75	No.10
9	土師器 坏	13.8	(3.6)	-	ABCD	普通	褐	50	No.4
10	土師器 甕	(19.4)	(10.2)	-	ADEHJ	不良	橙	15	No.2 内外面磨耗著しい
11	土師器 甕	-	(13.5)	4.4	ADEHJ	不良	橙	60	No.2 内外面磨耗著しい
12	土師器 鉢	(16.8)	9.7	7.4	EHJ	普通	灰黄褐	60	No.7
13	土師器 甕	(17.8)	(14.0)	-	ABCG	普通	明赤褐	50	No.3 重みやや大きい
14	不明土製品	現存長4.6cm	幅2.2cm	AEH	普通	にぶい橙	破片	重さ11.2g	
15	土鏃	長さ6.2cm	直径1.6cm	ADEH	普通	橙	破片	孔径0.4cm 重さ13.3g	